

**金沢市教育委員会事務事業
点検・評価報告書
(平成22年度執行分)**

平成23年11月
金沢市教育委員会

平成22年度金沢市教育委員会事務管理及び執行状況の点検評価について

金沢市教育委員会は、市長が市議会の同意を得て任命した7名の教育委員により組織された合議制の執行機関であり、多様化する教育ニーズに対応し、時代にふさわしい特色のある金沢の教育施策の実現を目指し、権限に属する教育に関する事務を管理執行している。

この度、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条の規定に基づき、平成22年度における教育委員会の活動及び所管事務について、その管理及び執行状況の点検及び評価を行い、この度、その結果を報告書としてとりまとめた。

具体的な点検及び評価方法については、4回目となる今年度も、対象分野を教育委員及び教育委員会が行った活動・事務と教育委員会事務局が行った事務(教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務)と大きく2つに分け、それぞれについて点検及び評価を行うこととした。

教育委員及び教育委員会が行った活動・事務については、主に教育委員会議の概要及び教育委員の活動について、その具体的な内容を記述し、点検・評価を行うとともに今後の方向性についても記載した。

また、教育委員会事務局が行った事務については、金沢市の将来的な姿を定めた「金沢世界都市構想 第2次基本計画」の施策体系に沿って分類した各基本方針に基づいて、各々の事務を出来るだけ具体的かつ客観的な数値をもとに点検し、4段階での自己評価を行った。

なお、法により定められている「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用」については、引き続き、金沢大学名誉教授 金子劭榮氏及び金沢市社会教育委員 中島秀雄氏から上記点検・評価に対する意見を頂き、反映した。

金沢市教育委員会は、今後ともこのような活動・事務に対する点検・評価を行い議会への提出や公表を通じて、金沢市民にわかりやすく教育委員会の活動を説明していくとともに、個々の事務を検証・改善しながら、本市の教育基本方針である、「人間尊重の精神のもと、広い視野を持ち、生涯を通じて自己向上につとめるとともに、社会の平和と進展に貢献し得る心身ともに健全な人間を育成する」の実現に向け、教育の充実と振興を目指す所存である。

平成23年11月

金沢市教育委員会

目 次

学識者の意見等	1
平成22年度教育委員会の活動状況	
(1) 教育委員	3
(2) 教育委員会議の実施状況	3
(3) 教育委員の活動	4
(4) 総括	7
金沢世界都市構想第2次基本計画における教育委員会施策	8
平成22年度金沢市教育委員会主要事務概要	
全体の評価	9
- 1. 世界に通ずる子どもの育成	
・金沢子ども条例の具現化	10
・子どもの体験・交流機会の創出	11
・子どもの育成環境の整備	16
- 2. 個性を生かした学校教育の推進	
・「学校教育金沢モデル」の推進	20
・特色ある教育の推進	27
・多様な教育の推進	32
・地域に開かれた学校づくり	37
・教員の資質向上	40
・学校環境の整備・充実	41
・市立工業高等学校の整備・充実	44
- 4. 生涯にわたる学習環境の支援	
・生涯学習機会の充実	47
- 1. 伝統文化の保存・継承	
・文化遺産の保存	56
・金沢ゆかりの文化の保存・活用	57
- 2. 子育て環境の整備	
・子育て支援体制の充実	58
- 4. ノーマライゼーション社会の実現	
・バリアフリーの推進・障害のある方の自立支援	62
- 5. 人権文化の創造	
・人権の尊重	63
・男女共同参画社会の推進	64
- 1. 災害に強いまちづくり	
・防災計画の見直しと体制の強化	65
・地域防災・防犯活動の支援	66
用語等説明	68

学識者の意見等

金沢大学名誉教授 金子 勲 榮

この点検・評価報告により、金沢市の教育に関するさまざまな事業等の取り組み状況が分かり、それらの成果を窺い知ることができる。近年始まった点検・評価報告は年々整ってきている。ただ、この作業の難しさも窺える一方、記述の曖昧さ等のために分かりにくい部分も見受けられる。関連事業の円滑な実施のための有効な情報提供と言う機能を果たすためにも、さらに改善を求めたい気もする。

まことに僭越ながら、点検・評価の基本的な形式を中心に、以下に私見を述べさせていただきます。

事業・活動によっては、標準的な点検・評価が困難なものもあると思われる。学校教育にしても社会教育にしても、その効果が明確に見えるとは限らない。一年単位で一定の効果が見えるものもあるが、長期間にわたらないと認められない(より本質的な)ものもある。長期間にわたっても、その効果を客観的に示すことが困難であるものさえあるだろう。

本報告では、「目的、目標」、「内容」、「実績等」、「点検」、「評価」、「今後の課題・方向性」という項目ごとに記述されているが、その記載内容は相互に関連しており、相互に矛盾や不一致はなく、それぞれの事業内容がわかりやすくなっているはずである。「点検」、「評価」、「今後の課題・方向性」はすべて、「目的、目標」に照らしての記述である。「点検」については、実施してみて初めて知る問題点もあるであろうし、現場でなければ見えないものも大事にしたい。無理矢理問題を見つけようとする必要はないが、何かを実施して何も問題がないということはそう多くない。

このような視点は、どんな点検・評価でも基本的に備えるべき基礎的な視点・形式であると考ええる。

言うまでもなく、点検・評価は、点検・評価のためになされるものではなく、その後に取り組み事業等の円滑な実施のための点検・評価である。事業等の目指す目的・目標としては、「～学力の維持・向上を図る」、「～教育水準の維持・向上を図る」のような大きな目標もあり、大きな目標達成のために実施される具体的事業等の「～情報を提供」、「～状況の把握」のような、比較的小さな目標もある。

本報告では具体的な事業ごとに点検・評価されているが、具体的事業ごとの小さな目的・目標についての点検・評価とともに、大きな目的・目標も意識しながらなされていると思われる。これらの目的・目標については、その具体的事業を計画し実施する時点で明確にされているはずであり、点検・評価される視点についてもかなり決まっていると思われる。

本報告もこのような視点にたった点検・評価を目指しているが、個々の具体的事業はかなり多様であり、同じ形式で点検・評価することは必ずしも容易ではない。本報告においても、少なからずその苦勞が窺える。点検・評価を形式的に整えるだけでは意味がない。客観的に記述できない部分に、その取り組みの重要な部分があるかも知れない。部分的に曖昧な部分があっても、現実的に柔軟に点検し柔軟に対応する方が、結果として本質を失わない取り組みを実施できるかも知れない。

このように考えれば、全事業について統一的に同一の形式により点検・評価することの適切性等、具体的事業等の実施状況も考えながら、点検・評価の在り方について再考の余地があるかも知れない。

ただ、上に述べた基礎的な点検・評価の視点は重要である。それぞれの事業については、その適切な点検・評価なしには、その目的・目標の達成を困難にするとと思われる。

至極当たり前のことを述べてしまったが、今後とも、適切な点検・評価が追求され継続されることを願い、金沢市ならではの教育活動が、ますます充実し発展することを期待したい。

昨年の 21 年度版の評価において、全般に P - D - C - A の観点から各事務事業の点検・評価に取り組んでいる姿勢は高く評価するが、点検・評価および今後の課題・評価の記述についてはやや具体性にかける面があると評させていただきました。本年度版では早速、自己評価について 4 段階評価を取り入れていただいたことは高く評価させていただきます。

ただ、前回評価でも述べたようにこの P D C A の手法の定着はそう簡単なものではないことは私自身の企業での経験からしてもよく理解していますが、このサイクルが順調に回転していけば事業基盤は強固なものとなり新たな事業展開の基礎にもなります。逆にこのサイクルの輪が繋がらなければすべての事業・活動は停滞・陳腐化し存在意義が薄れていきます。つまり C の部分で事業の結果の分析が不十分なままだと、爾後どのように事業を展開するかの方針（A と P の部分）があいまいになり、その結果事業そのものが何の為にあるのか、誰の為にするのがあいまいになってしまう危惧があるということです。

その意味からいえば、自己評価 C の事業で、次年度の方針については事業対象を限定的に考えずに広がり求めてより効果的に事業展開を図ろうとする姿勢や、問題点を把握し 23 年度にはその対応を検討し 24 年度に新しい試みを行うという記述はスピード感が適切であるかどうかは別として大いに評価されるべきものです。その反面問題意識はあるものの、具体的な課題の抽出が無く単に見直しが必要であると書いてあるだけのものや、事業によっては C と A について前年度と全く同一の記述があるなど事業評価の仕組みと意義について改めて確認・徹底が必要と思われる記述もありました。

冷静な事業分析、評価とそれに基づく事業計画の見直し、そして着実な事業実施、すべてはこの繰り返しにつきます。そして P D C A は一事業が終わってから、年度が切り替わってからではなく、事業遂行中でも常にそれぞれの局面で行われるべきものです。

P D C A の手法にこだわるあまり、言わずもがなの評になってしまったかもしれません。学校教育にせよ社会教育にせよ教育委員会の事業は「歴史都市」「創造都市」として評価され、「世界都市構想」を掲げながら次の時代に向かって進む金沢市にとって、今を、そして次代を担う人材（あえて書きます）を育む重要なものであります。教育委員会施策の根と幹はしっかりしています。これにどのような枝と葉、花をつけるかは各事業の P D C A サイクル確立も大きな要因であると考えます。

平成22年度金沢市教育委員会の活動状況

〔1〕教育委員

職名	氏名	任期	職業
委員長	佐藤 秀紀	H21.10.3～H25.10.2	大学名誉教授
委員長職務代理者	前川 信政	H20.4.1～H24.3.31	医療法人社団理事長
委員	柳下 道子	H19.1.1～H22.12.31 H23.1.1～H26.12.31	社会福祉法人理事長
委員	早川 芳子	H19.10.2～H23.10.1	会議通訳・翻訳者
委員	米井 裕一	H20.4.1～H24.3.31	会社社長
委員	岡 能久	H20.10.1～H24.9.30	会社社長
委員（教育長）	浅香 久美子	H20.10.1～H24.9.30	（教育長）

〔2〕教育委員会議の実施状況

1. 実施概要

（1）開催回数

定例会議：12回（原則として毎月第3水曜日）

臨時会議：8回（随時）

（2）付議件数

区分	内容	件数
議案	規則等に関する事	9
	議会の議決を経るべき議案に関する事	4
	人事に関する事	6
	教科用図書採択に関する事	8
	文化財の保護に関する事	9
	委員の委嘱等に関する事	3
	教職員研修に関する事	1
	その他	8
	計	48
報告		30
その他		42

(3) 運営上の工夫

資料の事前配付

事前に内容についての検討などの準備を行うために、会議開催日の3日前までに議案書や資料等を送付

公開

会議は、人事に関することや教育委員会に決定権のない案件、個人情報を含む案件など一部の非公開案件を除き、すべて公開で行うとともに、会議終了後、議案書及び関係資料並びに会議録について、教育委員会のホームページにおいて公開

* 非公開案件：地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項ただし書（人事に関する事件その他の事件について、委員長又は委員の発議により、出席委員の三分の二以上の多数で議決したとき）に基づき非公開とされた案件

2. 点検評価および今後の方向性

毎月1回の定例会議と必要に応じて開催する臨時会議を合わせて20回開催した。会議開催3日前までの資料の配布は、事前に審議内容についての検討などの準備を経て、各委員とも高い関心と問題意識を持って議案はもとより報告案件についても、積極的に議論を行った。

また、会議の公開、ホームページでの会議録等の公開等、市民に開かれた教育委員会の実現に取り組んだ。

今後は、さらに広く市民に教育委員会、教育行政への理解を深めてもらえるような創意工夫が必要である。

〔3〕教育委員の活動

1. 学校訪問（総合訪問）

(1) 概要

学校現場の実態把握と総合的な観点から学校の運営状況について把握するため、教育委員のほか、事務局の各課職員がそろって訪問する総合訪問を実施。3年間ですべての学校の訪問を行うサイクルを平成17年度から実施している。（平成22年度で2巡目終了）

(2) 総合訪問における教育委員の訪問内容

- ・ 校長からの学校の概要説明
学校評価に基づく学校の課題と具体的な取り組み等について
- ・ 教育委員会事務局からの学校の状況説明
- ・ 授業参観
- ・ 全教職員との意見交換と指導・助言 等

(3) 平成22年度の総合訪問実施状況

小学校	23校(前年20校)
中学校	6校(前年12校)
教育委員の延べ訪問者数	100人(前年100人)
意見交換を行った教職員数	913人(小学校496人、中学校417人)

2. 教育委員連絡会

平成21年度より、原則として定例教育委員会議終了後に教育委員の教育委員会全般についての情報収集、意見交換、また事務局職員との意見交換の場として実施している。

- ・各課所の重点事項、懸案事項等についての意見交換
- ・市議会報告
- ・教育目標についての意見交換
- ・総合訪問についての指導主事との意見交換 等

3. 行政視察・調査及び研修等

(1) 行政視察・調査

日時 平成22年11月25日(木)～26日(金)

目的 他都市の先進的な取り組みを今後の教育施策の参考とするため

- ・小中一貫校の学校運営及び教育課程の在り方について
- ・電子黒板等のICT整備及び利活用について

視察先及び視察・調査内容

千葉県船橋市教育委員会：教育行政における意見交換

千葉県船橋市立若松小学校：小中一貫教育授業視察及び意見交換

(学校運営組織、教職員の配置など)

千葉県船橋市立丸山小学校：電子黒板を用いた授業視察及び意見交換

(ICTの利活用など)

(2) 全国、東海北陸地区、石川県教育委員会連合会の関係行事、研究大会、研修会への参加

- ・石川県市町教育委員会連合会定期総会・講演会
- ・石川県市町教育委員セミナー
- ・石川県教育委員会連合会研究大会
研究協議「市町教育委員会の機能強化のための工夫について」における
取り組み発表 等

(3) 全国都市教育長協議会、中核市教育長連絡会、東海北陸都市教育長協議会、石川県市町教育長会の総会、協議会、研究大会、研修会への参加

4. その他

(1) 教育委員会主催会議への出席

- ・第2次学校教育金沢モデル構築戦略会議
- ・「学校教育金沢モデル」実践研修拠点校形成事業協議会
- ・言語活動、理数教育推進事業実施状況報告会
- ・「小中一貫教育モデル事業」推進会議

(2) 選考

- ・市立工業高等学校全日制教員採用候補者
- ・市立小中学校管理職（校長・教頭）候補者内申のため

(3) 講話等（専門性を活かした活動）

- ・市立工業高等学校における講演
- ・教科指導研究会における助言
- ・「心の茶室」の企画に関する助言

(4) 金沢市、金沢市教育委員会、各学校等主催行事への参加

- ・ユネスコスクールフォーラム
- ・「絆」シンポジウム
- ・教育施設の竣工式等
- ・各種表彰式等
- ・小学校、中学校、市立工業高等学校卒業式等

5. 点検評価および今後の方向性

- ・総合訪問については、全学校数の約1/3に当たる小中学校合わせて29校において実施し、各学校の運営方針、活動状況に加え、施設、教育環境の把握、授業の参観、教職員との意見交換等、様々な視点から児童生徒、教育現場の状況の把握を行い、教育施策に反映するよう努めた。学校では規律等について改善に努力している様子が見られ、成果のひとつと考えている。

平成23年度より総合訪問を3年一巡から2年一巡に変更することに加え、授業参観の仕方や分科会等の参加による教職員との意見交換の場を工夫するとともに、教育委員の総合訪問の新たな視点やチェックポイントなどについて検討も必要である。また、学校の公開授業等にも積極的に参加することで、より詳細な教育現場の状況把握ができ、指導・助言の充実が図られると考えている。

- ・教育委員連絡会については、新たに年度当初に重点事項、懸案事項について事務局職員との意見交換を行った。また、指導主事との意見交換の中では、総合訪問の内容の見直しを図ることができた。今後は、テーマ別の勉強会や事務局職員との意見交換を更に深め、教育課題の改善と新たな施策に結びつけたい。

- ・ 教育委員会主催会議や各種行事にも積極的に参加し、経験や専門性を活かした助言指導を行ったほか、幅広い情報収集や市政への理解も深めた。加えて、各教育委員の専門性を活かした、市立工業高校での講義や専門指導なども実施した。また、本市が進める小中一貫教育施策の先進事例の視察や他都市の学校訪問の他、石川縣市町教育委員会連合会主催等の各種研修会にも参加し、本市の取り組みの発表も行うなど、教育委員としての自己研鑽にも努めた。今後は行政視察や研修の成果のさらなる有効活用を図りたい。

〔４〕総括

総体的には、昨年度より充実した内容と評価している。

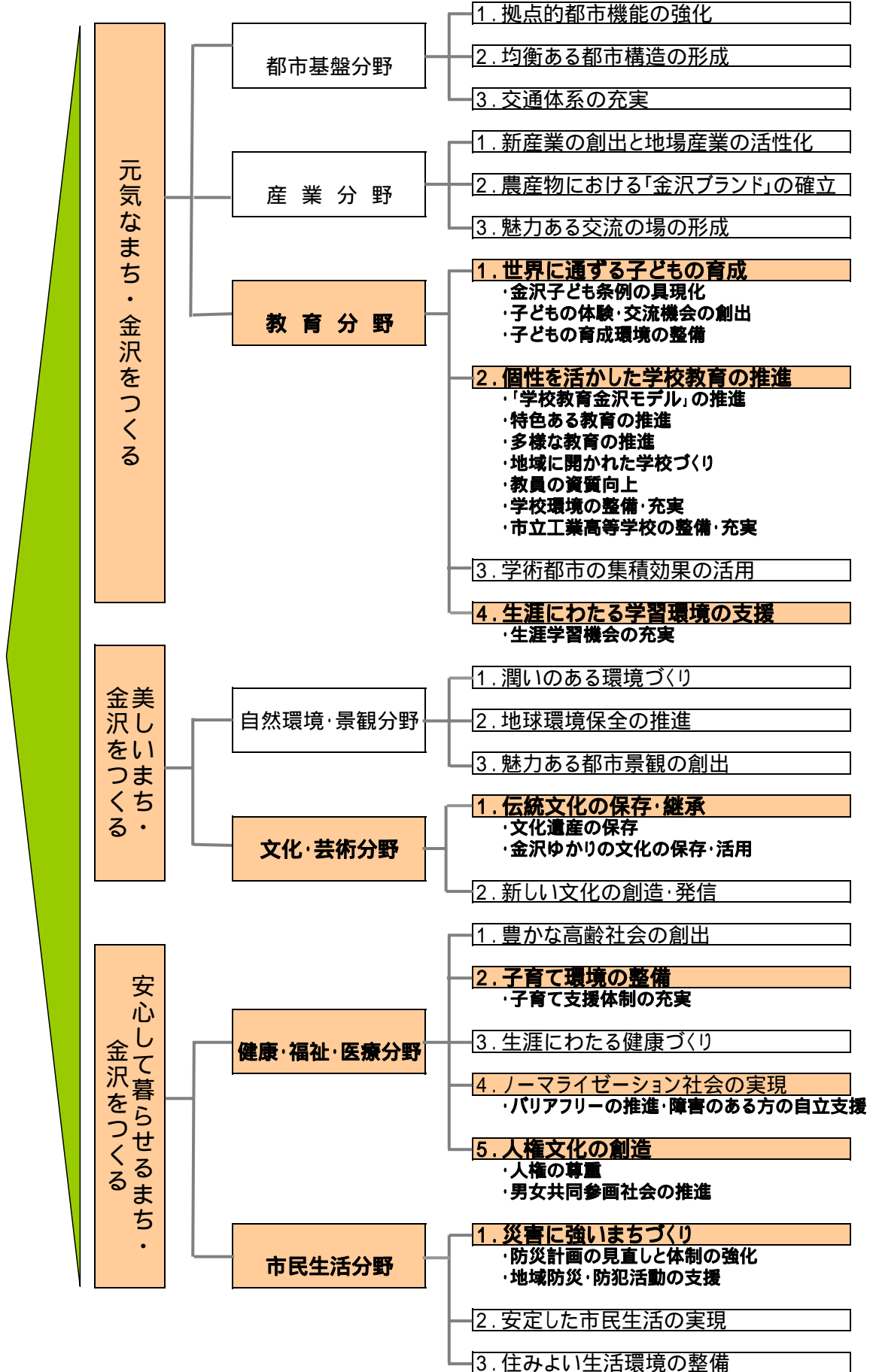
教育委員連絡会は有意義であり、さらに内容を充実させるとともに、今後は、教育委員会議、教育委員連絡会での委員の議論、意見等が教育施策の充実にどのように反映されているのか、その評価と反映のための課題についての検討がさらに必要である。

また、幅広く学校管理職や保護者などとの意見交換の場を持つとともに、教育委員の意見、提言などを広く発信するなど、さらに開かれた教育委員会を目指したい。

金沢世界都市構想 第2次基本計画における教育委員会施策

■ 教育委員会所管事業あり

世界都市金沢の実現



平成22年度 金沢市教育委員会主要事務の評価について

金沢世界都市構想第2次基本計画における「目標」「基本方針」「基本施策」の下で展開される129の「事業」についての点検・評価を行った。

基本方針	A	B	C	D	合計
- 1 世界に通ずる子どもの育成	9	17	4	0	30
- 2 個性を活かした学校教育の推進	63 (4)	13	0	0	76 (4)
- 4 生涯にわたる学習環境の支援	3	13	0	0	16
- 1 伝統文化の保存・継承	2 (1)	0	0	0	2 (1)
- 2 子育て環境の整備	8 (2)	2	0	0	10 (2)
- 4 ノーマライゼーション社会の実現	2 (2)	0	0	0	2 (2)
- 5 人権文化の創造	1 (1)	2	0	0	3 (1)
- 1 災害に強いまちづくり	3 (3)	3 (3)	0	0	6 (6)
合計	91 (13)	50 (3)	4	0	145 (16)
全体	78	47	4	0	129

()は、複数の基本方針、基本施策に跨がる事業数

評価は4段階（A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：やや不十分であった D：達成できなかった）で行い、全事業のうち、Aが60.5%、Bが36.4%、Cが3.1%、Dが0%となり、順調に取り組みができていと理解している。

今後は、十分達成できたものは、なぜ、達成できたのか、おおむね達成できた、やや不十分であったものは、どうすればよいのかを検討し、来年度以降の事業につなげていきたいと考えている。

事業概要の対象のうち小中学校に関する表記

表記	意味
小学校	金沢市立小学校
中学校	金沢市立中学校
小学生	金沢市立小学校の児童
中学生	金沢市立中学校の生徒
市内の小学校	金沢市内にある小学校
市内の中学校	金沢市内にある中学校
市内の小学生	金沢市内にある小学校の児童
市内の中学生	金沢市内にある中学校の生徒

平成22年度 金沢市教育委員会主要事務概要

目標	元気なまち・金沢をつくる
基本方針	- 1 世界に通ずる子どもの育成
基本施策	金沢子ども条例の具現化

【金沢子どもを育む行動計画の推進】

金沢子どもを育む行動計画(第二次)の推進	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内の子ども 開始時期:平成20年4月 予算:780千円) 「金沢子ども条例」の理念を具現化するために行動推進委員会を開催する 平成19年度に策定した「金沢子どもを育む行動計画」の第2次計画に基づき、 子どもを取り巻く社会環境の変化に対応する、アクションプランを委員会で審議 また条例に基づく施策を総合的に推進するために必要な事項について協議。
実績等	家庭・地域・企業・学校・行政等の有識者からなる「金沢子どもを育む行動推進委 員会」全体会を10月5日に開催。「金沢子どもを育む行動計画」(第2次)の概要 を説明し、各団体の取り組み状況の分析結果により、各団体の取り組みが条例 の理念に結びついていることを再認識した。
点検	各種団体から活発な意見交換がなされたが、全体の意識統一までには至らなか った。
評価	C
今後の課題・方向性	「社会全体で子どもを育成しよう」という意識を今まで以上に向上させ、家庭・ 地域・企業・学校・行政間における連携の強化を図り、各組織における認識・ 連携を充実させると共に、平成24年度に行動計画の見直しを行うべく、平成23 年度に準備を整える。
「金沢子ども週間」の普及・促進(金沢子ども週間フェスティバル)	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内の子ども 開始時期:平成15年度 予算:2,500千円) 「金沢子ども週間」の普及・啓発。参加者数8,500人。 子どもと大人のふれあいを通して子どもを育てる役割の大切さをあらためて考え る期間としての「金沢子ども週間」にイベントを開催する。
実績等	子ども週間フェスティバルを10月10日に金沢市民芸術村にて開催。 ・ステージにおける小中学生吹奏楽部発表、劇や昔あそびコーナー等 ・参加者 約9,000人(児童館フェスティバルと同時開催)
点検	多くの市民が参加し、「金沢子ども週間」の普及・啓発につながった。
評価	B
今後の課題・方向性	「金沢子ども週間」をさらに普及するために、課題等を再確認し、 開催方法や内容について、どのように行っていくのか見直しが必要である。
「金沢子ども週間」の普及・促進(家族の絆フォトコンクール)	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市民 開始時期(新)平成22年7月 予算:200千円) 「金沢子ども週間」の普及・啓発。応募作品数50点以上。 子どもと大人のふれあいを通して子どもを育てる役割の大切さをあらためて考える 期間としての「金沢子ども週間」にイベントを開催する。
実績等	応募数:65点、入賞作品:20点 表彰式:子ども週間フェスティバルにおいて実施(10月10日) 作品展示:金沢市民芸術村、玉川子ども図書館、金沢市アートホール
点検	多数の応募があり、子ども週間フェスティバルにおける作品展等にも参加が多く 見られた。
評価	B
今後の課題・方向性	応募者を増やすための広報のあり方を検討する必要がある。

目標	元気なまち・金沢をつくる
基本方針	- 1 世界に通ずる子どもの育成
基本施策	子どもの体験・交流機会の創出

【子どもの様々な体験・交流の推進】

こころの茶室～人と人、人と文化～	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小学生 開始時期(新)平成22年6月 予算:300千円) 伝統文化体験を通して、子どもの豊かな人間性の育成に寄与する。 6月～9月にかけて、年5回、松声庵でお茶会体験を行う。
実績等	5校の小学校がお茶会を体験し、金沢の伝統文化に触れた。
点検	本物のお茶室で、本格的なお茶会の体験をする機会がないので、子どもたちにとっては貴重な体験となった。
評価	B
今後の課題・方向性	金沢「学びタイム」の現地体験として位置づけ、学校との連携をはかっていく。
ジュニアかなざわ検定の実施	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内小学4年生～中学3年生 開始時期:平成18年4月 予算:318千円) 子どもたちが金沢の歴史や文化について学ぶ機会を創出する。 ジュニアかなざわ検定開催のための実行委員会・問題作成委員会を開催し、ジュニアかなざわ検定を小学生版・中学生版に分けて、45分間で実施する。
実績等	8月23日(月)実施。受検者数3,082名(うち、保護者10名)
点検	平成21年度に比べ、受検者数は1,000人以上増加。 こども達のふるさとへの関心が高まっているといえる。
評価	A
今後の課題・方向性	より難易度を下げ、敷居を低くすることで、子どもたちの受検意識をかきたてる。
「立志のつどい」の支援	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内中学2年生 開始時期:昭和56年2月 予算:910千円) 14歳の少年少女が将来のために志を立てることを祝うために実施される立志式の支援。 「立志のつどい」「立志式」を支援するための記念品を配布。
実績等	4,298人に記念品を配布。
点検	初めて式を開催する地域が一つ増えた(十一屋)。 記念品も全対象者に配布できた。
評価	B
今後の課題・方向性	式典については、まだ未開催の地域もある。全ての地域で開催できるように、地域との連携をはかっていく。

国内への派遣研修の実施(金沢少年の翼)	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内小学5年生～中学3年生 開始時期:昭和55年度 予算:430千円) 団体生活を通して友愛と協調の精神や社会性・自主性を養い、視野を広める。 国外への派遣研修の支援(石川少年の翼):石川県事業への負担金 国内外の青少年の受入(国内国際受入)
実績等	金沢少年の翼:鹿児島への派遣(5泊6日)参加者数66人 国内国際受入:受入実績なし 石川少年の翼:ロシアへの派遣 参加者数9人
点検	「金沢少年の翼」については、派遣地の雄大な大自然や、歴史・産業、また現地の人々との交流により、次代を担う子どもたちの感性や徳性の涵養に寄与している。
評価	B
今後の課題・方向性	東北への派遣による復興への支援等、これまでとは違った手法も視野に入れながら、より良い実施策を検討する。
生涯学習情報誌「みまっ誌」の発行	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:一般 開始時期:平成18年4月 予算:4,410千円) 子ども情報発信推進事業「みまっ誌」を発行する。 生涯学習に関わる講座・催事・遊びや学びに関するイベント情報、自然体験活動・社会体験活動などの情報を掲載したイベント情報誌「みまっ誌」を発行する。
実績等	年4回発行 47,000部/回
点検	子どもと大人と一緒に楽しめるイベントを簡単に探すことができると好評である。
評価	B
今後の課題・方向性	掲載内容がよりの確に伝わるよう、誌面の充実を図っていく。
キゴ山少年自然の家、土子原こども野外広場、甥杉少年の森の運営	
事業内容 (目的、目標) (内容)	(対象:キゴ山少年自然の家、土子原こども野外広場、甥杉少年の森 開始時期:昭和51年6月(キゴ山少年自然の家)、平成12年8月(土子原こども野外広場)、昭和59年8月(甥杉少年の森) 予算:26,602千円(キゴ山少年自然の家)、3,257千円(甥杉少年の森)、3,426千円(土子原こども野外広場)) 各施設の円滑かつ効率的な運営による健全な青少年育成。 自然観察、レクリエーション、少年団体の指導者の研修施設として各施設を運営する。
実績等	少年自然の家 利用者数:12,421人、主催事業数:3事業、同参加者数:387人 土子原こども野外広場 利用団体:34団体、利用者:延べ2,192人 甥杉少年の森 利用団体:48団体、利用者:延べ3,384人
点検	延べ参加者数計、利用団体数計ともに増加した。 H21:16,920人 H22:18,384人、H21:80団体 H22:82団体 積極的な広報活動が、実績の増加に貢献した。
評価	B
今後の課題・方向性	さらなる利用者数の増加のため、魅力ある主催事業を実施し、継続して自然環境の中での健全な青少年育成を行っていきたい。

子ども里山里海交流事業「いのちの教室」	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小学4年生～6年生 開始時期:平成21年4月 予算:480千円) 里山里海で、ともに考え、学びながら活動し「命の大切さ」、「生きる」ことを学ぶ。 異なる地域・年齢の子どもたちが多様な「生」が生存する「里山」「里海」という フィールドの四季を活用し、様々な活動・体験学習を行う。
実績等	公募30名程度(小4～小6)年6回 延べ参加者数 71人
点検	子どもの野外活動体験は重要であるが、参加者が少ない。
評価	B
今後の課題・方向性	平成22年度事業終了
教育プラザ富樫での活動	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市民 開始時期:平成15年7月 予算:1,092千円) 子ども同士・あるいは親子がふれあう交流の場を提供。 小中学生に対する情報提供の支援。 毎月第3日曜日に教育プラザ富樫施設利用団体が出店し、わいわいバザールを 開催。親子で楽しめる交流の場を提供する。 「将棋子ども教室」「着物子ども教室」「親子で学ぶ心の花教室」の3講座を開催。 子ども情報室にパソコン4台を設置し、情報による調べ学習を支援。
実績等	毎回趣向を変えたわいわいバザールの定期開催により、親子で楽しめる交流の 場を提供した。日本の伝統文化を学ぶ3教室の開催を通して子どもの健全育成 をはかった。 子ども情報室利用者数 8,055人
点検	親子で楽しめる「わいわいバザール」は大好評で、当該施設に登録する子育て 支援グループ間の交流にも役立っている。各講座については定員を大きく上回る 応募があり、日本の伝統文化を学ぶだけではなく礼儀作法を学ぶ貴重な機会に もなっている。
評価	B
今後の課題・方向性	魅力的なイベント・講座となるよう引き続き工夫を重ねるとともに、より効果的な 広報活動のあり方について検討。

【子どもの理科学体験の推進】

(財)金沢子ども科学財団の運営	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内小中学生 開始時期:平成13年度 予算:26,759千円) 学校で教えない実験等を通し、子どもの理科等への意欲向上を図る財団を支援する。 様々な教育事業や普及啓発等を通じ、小中学生の課外における科学的な活動などを支援するとともに科学に対する知的好奇心や独創的で柔軟な発想を育む。
実績等	小学校児童科学教室 年18回開催 登録人数230人(5,6年生) 中学校サイエンスクラブ 年10回開催 登録人数34人 出前科学スクール 年94回 参加者延べ3,144人 算数・数学チャレンジクラブ 年12回開催 登録人数217人 広坂子ども科学スタジオ事業 年51回開催 参加者延べ 3,520人 科学相談事業(長期事業) 年12回開催 登録人数10名
点検	年間受講の事業参加者も増加するとともに、財団事業を活用した研究活動で優秀な成績を修める受講者も出てきており、これまでの活動成果が徐々に出てきている。
評価	A
今後の課題・方向性	他に例を見ない体系的な事業体系を維持しながら、今後も科学分野の裾野を広げる事業を関係機関とも連携して展開していく。そのための安定財源確保が今後の大きな課題である。
少年少女発明クラブへの支援	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内小学生 開始時期:昭和58年度 予算:300千円) クラブの運営を支援し、創造力豊かな子どもの育成を図る。 市内小学生(5,6年)希望者を対象に、課題工作・アイデア工作などの創作活動を行う「少年少女発明クラブ」((社)発明協会石川県支部主催)の運営に対し交付金を交付する。
実績等	課題工作、アイデア工作等の創作活動と作品の成果発表会、石川県発明くふう展への作品の出品と見学を実施。総参加人数680人
点検	子どもたちの理科離れが指摘される中、小学生に科学技術的な創作の楽しさを体験させる機会を提供している。
評価	A
今後の課題・方向性	参加者数増加のためさらなる工夫が必要と思われるが、事業としては今後も継続していく。
金沢市発明奨励賞の授与	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内小学校 開始時期:平成7年度 予算:240千円) 創造力豊かな子どもの育成を図る。 「石川県発明くふう展」を開催している(社)発明協会に対し交付金を交付し、優秀な成績を収めた学校に対し、金沢市発明奨励賞を授与している。
実績等	受賞校 南小立野小学校、西南部小学校 展示作品267点
点検	科学作品の制作等に積極的に取り組む学校を報奨することは、本市における発明奨励、科学技術の振興に寄与している。
評価	A
今後の課題・方向性	発明奨励、科学技術の振興の観点から今後も引き続き継続する。

【子どもの理科学体験の推進】

キゴ山天体観察センターの運営	
事業内容 (目的、目標) (内容)	(対象:キゴ山天体観察センター 開始時期:平成10年10月 予算:14,360千円) 施設の運営・事業の開催を通じて宇宙についての理解を深め、創造性豊かな子どもの育成を図る。 キゴ山天体観察センターの効率的かつ円滑な管理・運営。
実績等	プラネタリウム利用者数:11,761人 主催事業(キゴ山宇宙塾、ジュニア宇宙塾、キゴ山星まつり等)参加者2,164人
点検	プラネタリウム利用者数が前年比21%増加し、主催事業参加者が前年比45%増加した。新規事業のキゴ山星まつりが、実績の増加に大きく貢献した。
評価	B
今後の課題・方向性	今後とも宇宙科学の裾野を広げる事業を進めるとともに、積極的な広報活動等を行い、利用者の増加を目指したい。

【子どもの読書活動の推進】

金沢読書推進プラン21(第2次)	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内の子ども 開始時期:平成21年度4月 予算:160千円) 金沢子ども読書推進プラン21(第2次)の理念を具現化する。 子どもの読書環境整備や読書活動の推進状況の確認
実績等	子ども読書活動推進会議を年2回開催し、90件の取り組み状況に対する自己評価を実施した。 評価結果・・・A(とても良くてできた)及びB(概ねできた)の割合89%
点検	既存の取組に対しては、より積極的な姿勢が見られ、また「はじめまして絵本事業」など、新たな取組も始められたことにより、評価AとBの合計は、平成21年度の76%から大きく向上した。
評価	A
今後の課題・方向性	家庭・地域・企業・学校・行政が各方面でより充実した取組を継続して実施する。子どもの読書活動をきめ細やかにサポートするために、相互の協力体制を整備し、連携を深めることに努める。

目標	元気なまち・金沢をつくる
基本方針	- 1 世界に通ずる子どもの育成
基本施策	子どもの育成環境の整備

【地域のリーダー、指導者の育成】

かなざわユースリーダー創生塾	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:高校生・大学生20人 開始時期:平成12年4月 予算:252千円) 仲間づくりや体験活動を通じ、若手リーダー育成のため、知識・技能を修得する。 甥杉少年の森での野外活動や、「いのちの教室」のサポートスタッフとしての実践活動を行う。
実績等	活動回数:10回 参加者数:39人
点検	21年度に比べて参加者は減少。
評価	B
今後の課題・方向性	他団体による同様事業も多くあり、行政としての役割として側面サポート(場所、補助等)も視野に入れて、あり方を検討。
リーダー交流事業	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:青少年団体に属する若手リーダー 開始時期:平成22年3月 予算:110千円) 若手リーダー育成。 各団体同士の交流を通じて、情報交換、企画・運営をする機会をつくることにより各団体のリーダーの資質の向上を図る。
実績等	宿泊研修会1回 参加者数:7人
点検	前年度よりも若干参加数が減少し、情報交換の機会も減少した。
評価	C
今後の課題・方向性	団体間の情報交換という機会はとても貴重な体験なので、より多くのリーダーが参加できるように、他の事業・イベントとの日程が重ならないように事前調査と調整が必要である。
地域リーダー活性化事業	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:青少年団体に所属する指導者 開始時期:平成18年度 予算:68千円) 団体と行政が、子どもの育成について課題を共有し、相互理解・連携を深める。 各団体の役員・指導者が集まる場を利用し、各団体の課題等に対応できる講師を派遣して出前講座を実施。
実績等	出前講座2回、参加者53名
点検	出前講座の回数減により、参加者数が減少した。
評価	C
今後の課題・方向性	平成22年度事業終了
中高年齢者子どもサポーター育成事業	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:地域活動に携わる中高年層 開始時期:平成21年4月 予算:210千円) 現代の子どもたちを知るとともに、地域の中で何ができるかを考える。 現代の子どもを認識する各種テーマに基づく講義、現場見学等。
実績等	講座:1回 参加者:61名
点検	実施回数減のため、参加者も減少した。
評価	C
今後の課題・方向性	中高年層のみに特化したものではなく、地域で子どもを支える人材の指導力向上を支援するため、活動に携わる方または関心のある方を広く対象とする。

【地域のネットワークの構築・拡充】

子ども仲間づくり推進	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:各地区校区子ども会 開始時期:昭和62年4月 予算:8,690千円) 子ども会に対し助成し、地域コミュニティの再生を図る。 各地区校区子ども会の会員数に応じて補助金を交付。
実績等	平成23年度:65地区子ども会に補助金を交付。(8,557千円)
点検	全ての地区校区子ども会に交付でき、地域コミュニティ活性化に寄与できた。
評価	B
今後の課題・方向性	今後も、子ども会の活動を支援するために、補助金を交付し、子ども会活動を活性化させることで地域コミュニティの再生を図っていく。
地域ぐるみの学校支援事業	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内の子ども、地域住民 開始時期:平成20年4月 予算:3,643千円) 金沢市子どもを育む行動計画の具現化を推進する。 地域全体で子どもたちを見守り育成していく学校での枠組みづくりを支援する。 (一部補助事業あり)
実績等	高岡中学校、高尾台中学校、長田中学校、西南部中学校、額中学校の5校に学校支援地域本部を設置。実行委員会に基づき、事業実施にかかる普及啓発として実施校視察会、コーディネーター情報交換会等を行った。
点検	事業3年目となり、各校の学校・家庭・地域の連携推進につながった。 視察会を行ったことにより、H23年度から新規に3校追加。
評価	B
今後の課題・方向性	当該事業は、文部科学省による平成22年度までの委託事業であったが、平成23年度から全て補助事業となった。本市として事業効果を検証しながら、学校・家庭・地域の連携推進にむけて独自の施策について検討していく。

【青少年の健全育成推進】

地域健全育成活動への支援	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:各地区青少年健全育成推進団体 開始時期:- 予算:3,000千円) 子どもたちが安心して心身ともに健康に暮らせる地域づくりをめざす。 地域住民の青少年健全育成意識を啓発する。 地域住民の青少年健全育成活動の意識啓発活動、青少年非行防止活動、有害環境の浄化活動、青少年健全育成の広報活動を実施する対象団体に補助金を交付。
実績等	52団体に計3,000千円を交付した。 各地区平均8回程度の活動を行った。
点検	各地区ごとにそれぞれの地域に即した特色ある青少年健全育成活動を展開している。
評価	A
今後の課題・方向性	携帯電話やインターネットの弊害によるものなど、最近の青少年の健全育成を阻害する要因は多様化しており、地域住民の青少年健全育成意識の啓発・向上等のため、支援を行っていく。

地域健全育成活動団体の連携促進	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:金沢市青少年健全育成協議会 開始時期:平成11年11月 予算:400千円) 各地区青少年健全育成推進団体の相互関係構築と、情報交換、技術向上。 地域の青少年健全育成推進団体の相互の情報交換や合同での研修会の実施。 各々の地域での健全育成活動の取り組みの方向性、合同での事業の実施等についての調査と研究を行い、健全育成推進活動の効果をより高める。 下記活動内容を実施する金沢市青少年健全育成協議会(各地域青少年健全育成推進団体61団体で構成)に交付金を交付。 ・各ブロック会議の開催(情報交換、研修)、全体研修会の開催、金沢市青少年健全育成推進大会の開催、警察等関係機関と街頭キャンペーンを実施。
実績等	全体研修会を実施したほか各ブロック会議を開催。警察本部と合同で非行防止のための一斉街頭キャンペーンを実施。 市内酒類、たばこ販売店へ販売時の年齢確認徹底の協力依頼を実施。
点検	市内酒類、たばこ販売店へ販売時の年齢確認徹底の協力依頼を実施するなど、精力的に活動を実施。各ブロック研修を開催し、知識の向上をはかった。
評価	B
今後の課題・方向性	携帯電話やインターネットの弊害によるものなど、最近の青少年の健全育成を阻害する要因は多様化しており、時代やニーズにあった活動に向け支援を行っていく。
地域子ども指導員による巡回等	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:地域子ども指導員 開始時期:平成19年6月 予算:166千円) 各地域の青少年非行防止、有害環境浄化を推進する。 地域における青少年健全育成推進団体から推薦された方465名を「地域こども指導員」に委嘱し、各地域の街頭での声かけや巡回を行う。
実績等	各地区の街頭での声かけや巡回、市少年補導部門との合同研修会、巡回強化地区への市補導部門補導員との合同補導活動
点検	全体で465名が各地区で地域子ども指導員として非行防止活動と有害環境浄化活動を展開している。
評価	B
今後の課題・方向性	今後も青少年の非行防止、有害環境浄化の推進にむけ継続的に活動の活性化につながるよう支援を実施。また、充実した研修会を開催し、知識の向上に向けた取組を行う。
金沢市児童生徒「思いやりの心」活動奨励賞	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内小中学校 開始時期:平成21年11月 予算:118千円) 「絆」教育の一環として、本市における児童生徒の思いやりの心を持って行った活動を奨励するため、優れた活動を行う学校及び児童生徒のグループを表彰する。 金沢市青少年健全育成推進大会席上にて表彰。
実績等	学校賞 4校(小学校3校 中学校1校) グループ賞 1校(中学校1校)
点検	この表彰により、受賞した学校及びグループの活動内容が市内小中全学校に周知。優れた学校の教育的活動を情報共有し、奨励することが出来た。
評価	B
今後の課題・方向性	優れた学校の教育的活動を市内の小中学校や市民へ情報発信するために、または奨励するために、この表彰を継続、絆教育を推進する。

【児童生徒への様々な顕彰】

豊かな心を育てる活動	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象: 幼児～市内小中学生 開始時期: 昭和23年度 予算: 365千円) 子どもの豊かな心をはぐくむために、子どもの善行をたたえる。 子どもや子ども会の善行を表彰する。
実績等	小さな親切実践者表彰: 認定者944名 優良子ども会表彰: 表彰団体3団体 善行児童・生徒表彰: 人名救助(3名)、善行(37名)
点検	小さな親切実践者表彰、優良子ども会表彰、善行児童・生徒表彰、いずれも被表彰者・団体は増加。子どもたちにとっては大きな励みとなっている。
評価	B
今後の課題・方向性	今後とも子どもたちの善行をたたえる機会を設けるために継続していく。
岡文化賞	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象: 市内中学校及び市内中学生 開始時期: 昭和54年度 予算: 900千円) 文化部各分野の活動の振興を図るとともに、人材育成を図る。 中学校における文化活動に優れた文化部、生徒を表彰する。
実績等	第31回岡文化賞授与式 (H22.12.18) 金沢市文化ホール 受賞者 団体部門3校、個人部門7人、特別部門賞2校
点検	本賞は、賞の設立の際、資金提供いただいた方の意志やこれまでの歴史もあり、中学生や中学校にとっても栄えある賞であり、文化部活動の励みとなっている。
評価	A
今後の課題・方向性	選考方法のあり方について検討が必要。文化部各分野における活動の振興を図るとともに、人材育成を図るために今後も継続する。
宮村英語奨励賞	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象: 市内中学校3年生 開始時期: 昭和60年度 予算: 485千円) 中学生の英語学習・英語活動を推奨し、世界に通ずる子どもの育成を図る。 第1次選考(筆記試験及びヒアリング試験)と第2次選考(選考委員による面接試験)を実施し、受賞者を決定、表彰する。
実績等	受賞者21人、授与式H22.10.16 金沢市文化ホール
点検	本賞は、賞の設立の際、資金提供いただいた方の意志やこれまでの歴史もあり、中学生にとって栄えある賞であり、英語学習、英語活動の励みとなっている。
評価	A
今後の課題・方向性	選考方法について検討しながら、英語分野における活動の振興を図るとともに、人材育成を図るために今後も継続する。
高峰賞	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象: 市内中学校3年生 開始時期: 昭和26年度 予算: 1,000千円) 団体を支援することで高峰博士の顕彰と中学生の理科学教育の向上を図る。 理科学研究に優れた中学生を表彰する高峰謙吉博士顕彰会に対する補助金を交付する。
実績等	受賞者 12人、授与式 H22.12.11 金沢市文化ホール
点検	本賞は、賞の設立の際、資金提供いただいた方の意志やこれまでの歴史もあり、中学生にとって栄えある賞であり、理科学活動の励みになっている。
評価	A
今後の課題・方向性	理科学分野や活動の振興を図るとともに、人材育成を図るためにも今後とも継続する。

平成22年度 金沢市教育委員会主要事務概要

目標	元気なまち・金沢をつくる
基本方針	- 2 個性を活かした学校教育の推進
基本施策	「学校教育金沢モデル」の推進

【第2次「学校教育金沢モデル」の構築】

第2次「学校教育金沢モデル」構築戦略会議の開催	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校 開始時期:平成21年度 予算:1,300千円) 第2次学校教育金沢モデルの構築 第2次学校教育金沢モデルとしてこれからの金沢にふさわしい教育のあり方を検討するための有識者から成る戦略会議を開催。
実績等	H21年度～H22年度 計3回会議を開催 「金沢の学校教育のあり方について」の提言を教育委員会へ提出し、教職員を対象に第2次学校教育金沢モデルのパンフレットを作成、配布。
点検	学校教育金沢モデルを構築するための方策が会議によって生み出され、今後のモデルを推進していく事業の基盤とする。
評価	A
今後の課題・方向性	H22年度で完了。

【金沢「絆」教育の推進】

心と心をつなぐ絆体験事業	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:中学1年生 開始時期(新)平成22年度 予算:1,000千円) 絆づくりの推進と不登校・問題行動の未然防止を図る。 宿泊体験等を実施し、体験活動を通じて生徒同士の絆や教員・地域の方との心の絆を育てる。
実績等	中学校8校で実施(予算10校)
点検	実施校については、確実に該当学年の不登校が減少し、また職員間の学年組織も機能するため、その後の学校生活においても円滑な状況が見られる。
評価	B
今後の課題・方向性	講演内容や地域人材を活用した体験活動を充実することで応募学校の増加を図る。
心と命を育む体験活動	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:学校・家庭・地域 開始時期(新)平成22年度 予算:2,000千円) 「絆」を深める教育活動のきっかけづくりとし、「絆」教育活動の推進を図る。 金沢「絆」教育の推進の一環として、「心と命を育む体験活動」を実施する。また、日々の教育活動全般を通して、「絆」を深めていく。
実績等	全市一斉活動として、全市児童生徒あいさつの日(5月31日)、全市児童生徒ボランティアの日(7月28日)、全市児童生「絆」活動の日(1月28日)を実施 金沢「絆」シンポジウム、中学生フォーラムの開催
点検	全市一斉活動、金沢「絆」シンポジウムや中学生フォーラム等をきっかけとして、日々の教育活動全般を通して、豊かな心と金沢に誇りをもつ子どもの育成に取り組んでいる。
評価	A
今後の課題・方向性	金沢「絆」教育を一層充実し、今後も継続して実施する。

【金沢ユネスコスクールの推進】

金沢ユネスコスクールの推進	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校 開始時期:平成21年度 予算:2,900千円) 市立小中学校のユネスコスクールへの加盟を促進し、持続発展教育の推進を図る。 国際理解、環境教育等を通して、児童生徒の持続発展可能な社会について理解を深め、地域や国内外に発信する。ユネスコスクール登録校を拡大するとともに金沢の取り組みを全国に発信するフォーラムを開催する。
実績等	加盟校 H21年度 小10校、中1校 H22年度 小10校、中1校、小中併設校2校 計26校(予算上は24校) ユネスコスクール交流会議を3回開催。 8月26日 ユネスコスクールフォーラムin KANAZAWAを開催。
点検	金沢「絆」教育と持続発展教育の関連に留意し、イベント的事業とならないよう中長期的な間隔で事業を執行する。
評価	A
今後の課題・方向性	加盟校の拡大を進めるとともに、加盟校同士のネットワークを推進し、更なる持続発展教育の向上を進めていく。

【2学期制を活かしたきめ細やかな指導評価】

「学習到達度連絡表」等の作成	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:保護者・小中学生 開始時期:平成16年度 予算:3,000千円) 確かな学力の定着のために児童生徒の学習状況をきめ細やかに伝え、学校・家庭間で共有化を図る。 各学校で学習到達度連絡表を作成し、保護者や児童生徒に学習の様子や成果、進歩の状況を伝える。
実績等	市立小中学校84校(芳齋分校を含む)、36,476人
点検	各学校で学習到達度連絡表等を作成し、保護者や児童生徒に学習の様子や成果、進歩の状況を適切に伝えることで、きめ細やかな指導・連絡を図った。
評価	A
今後の課題・方向性	各児童生徒の学習状況に応じたきめ細やかな指導・連絡を図るために、今後とも継続する。

サマースクールの実施	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学生 開始時期:平成10年度 予算:3,280千円) 確かな学力の定着のために、夏休み期間中の教育活動の充実を図る。 各学校で補充・発展学習や体験活動等を実施する。
実績等	開催校 市立小中学校84校(芳齋分校を含む) 小学校(発展補充教室、水泳教室等)平均17日実施 中学校(補充教室、質問教室等)平均15日実施
点検	長期休業期間の活用を創意工夫しながら教育活動の充実を図っており、子どもたちの学習意欲の喚起・確かな学力の育成に寄与している。
評価	A
今後の課題・方向性	各学校が夏期休業中という時間的なゆとりを活かし、それぞれの実情に応じた活動の実施には有効であり、今後とも継続する。

スクールフォーラム21の開催	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:教職員、地域住民、保護者 開始時期:平成11年度 予算:1,620千円) 学校・家庭・地域が一体となって、より良い学校づくりや子どもの健全育成を図る。 教職員と保護者、地域住民がともに学校づくりに取り組むための話し合いをすべての小中学校で実施。
実績等	開催校 市立小中学校84校(芳齋分校を含む)
点検	すべての学校で実施し、学校・家庭・地域が一体となって、より良い学校づくりや子どもの健全育成を進めている。
評価	A
今後の課題・方向性	開催時期や方法等、地域の実情に応じて工夫しながら、今後も継続していく。
スクールモニター制の実施	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:教職員、地域住民 開始時期:平成7年度 予算:800千円) 地域の協力を得て子どもの健全育成に取り組む。 学校外の子どもの様子等を学校に報告する地域ボランティアを配置する。
実績等	市立小中学校80校(小中併設校は1校と算出)で実施 1,916人
点検	地域の協力を得て子どもの健全育成に取り組むことができたほか、地域に開かれた学校づくりにもつながっている。
評価	A
今後の課題・方向性	学校、家庭、地域が連携し学校づくりを進めるため、今後とも継続する。
全市一斉「学校公開週間」の実施	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校、市立工業高等学校、地域住民 開始時期:平成13年度 予算:0千円) 保護者や地域住民の学校に対する関心を高め、開かれた学校づくりを進める。 保護者や地域住民が気軽に学校や子どもたちの様子を参観する場を提供する。
実績等	市立小中学校84校(芳齋分校を含む)、市立工業高等学校で実施 5月31日～6月4日(5日間)15,113名
点検	保護者や地域住民の学校に対する関心が高まってきており、開かれた学校づくりが進んでいる。
評価	A
今後の課題・方向性	各学校の実情に応じて開催時期や周知方法を工夫する等、参加者増のための検討を行いながら、今後も継続して実施する。

【学習指導基準金沢スタンダードの実践】

学力調査の実施	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小・中学校 開始時期:平成14年度 予算:8,100千円) 学習指導要領で求められている資質や能力の定着状況の把握。 全国学力・学習状況調査を全校で実施するほか、 中学校3年生を対象に市独自の統一テストを実施。
実績等	・全国学力・学習状況調査 4月20日実施 小学校6年生(国語・算数)、中学校3年生(国語・数学) ・中学校統一テスト 11月11日・1月12日の2回、中学校3年生(5教科)
点検	学習内容の定着状況を検証・確認することで、今後の指導に生かしている。
評価	A
今後の課題・方向性	学校での指導改善や市教委での施策立案に生かすために必要であり、 文部科学省による全国学力・学習状況調査の実施方針を踏まえながら、 今後とも継続して実施する。
算数科副読本改訂版の配付	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小学3～6年生 開始時期:平成15年度 予算:2,900千円) 学習指導基準金沢スタンダードを実践し、算数科の学力向上を図る。 新学習指導要領の全面実施及び教科書採択を踏まえ、算数副読本を改訂し、 小学3年～6年生に配付する。
実績等	算数副読本を小学校3年～6年生に配付したほか、指導資料を教職員用ネット ワーク上に掲載した。 小3用4,300部、小4用4,400部、小5用4,500部、小6用4,500部
点検	全国学力・学習状況調査において本市児童の状況は全国に対し、良好であり副 読本を使った学習の効果が上がってきている。
評価	A
今後の課題・方向性	平成21,22年度に新学習指導要領、全国学力・学習状況調査への対応や小中 学校の連携を意識した内容に改訂を行い、学力の向上及び金沢スタンダードの 充実に取り組んでおり、今度も継続して実施する。
小学校社会教材の配付	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内小学3、4年生 開始時期:平成13年度 予算:4,872千円) 学習指導基準金沢スタンダードの実践、身近な地域についての学習を行う。 地域学習に必要な社会科副読本を市内小学校3年生に配付。
実績等	「のびゆく金沢」22年度版 4,700部、「華やか金沢」5,600部配布
点検	社会科副読本を使った地域学習により、子供たちに身近な地域のことが伝わって いる。
評価	A
今後の課題・方向性	今後とも金沢スタンダードの充実に向けて継続する。

金沢スタンダード・ベーシックカリキュラムの策定	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小学校 開始時期:新平成22年度 予算:1,100千円) 小学校が、学習指導基準金沢スタンダードを盛り込んだ特色のある教育課程の編成、実施を進める。 学習指導基準金沢スタンダード及び新学習指導要領を踏まえ、各教科の教育課程の骨子(ベーシックカリキュラム)の小学校版を策定し、各学校に配付する。
実績等	金沢スタンダード・ベーシックカリキュラム(小学校版)を策定し、全小学校に配付した。
点検	金沢スタンダード・ベーシックカリキュラムに各学校の実情を踏まえた内容を加えることで、創意工夫を生かした特色のある教育課程の編成、実施を進めることができた。
評価	A
今後の課題・方向性	平成23年度は、金沢スタンダード・ベーシックカリキュラムの中学校版を策定する。

【新学習指導要領に対応した教育実践】

言語活動・理数教育推進校の指定	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校 開始時期:新平成22年度 予算:1,800千円) 言語活動・理数教育に関する実践事例の蓄積と普及 新学習指導要領で重視されている言語活動や理数教育に関し、推進校において複数教科での実践研究(2年間)を行い、成果を市全体に普及する。
実績等	(言語活動) 5校(小学校4、中学校1) (理数教育) 3校(小学校2、中学校1) (予算6校)
点検	推進校による協議会を開催し、進捗状況を確認しているほか、各学校からもホームページ等を活用して成果の発信を行っている。
評価	A
今後の課題・方向性	2年間の実践研究を行い、その成果をすべての小中学校で活用するものであり、継続して実施する。

【「国語力」の向上】

語彙力金沢検定	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小学5年生、中学2年生 開始時期:平成18年度 予算:295千円) 児童生徒の学力向上や学習意欲の喚起を図り、国語力の向上を図る。 児童生徒の語彙力を測定・評価する市独自の検定試験を実施する。
実績等	市立小学校全5年生及び中学校全2年生で語彙力金沢検定を実施した。 1級認定通過率 小学校5年生 66%(H21:47%) 中学校2年生 50%(H21:20%)
点検	語彙力金沢検定を行うことで、検定の結果を踏まえた国語力向上の取組が各学校で積極的に実施されており、児童生徒の学力向上や学習意欲の喚起を図っている。
評価	A
今後の課題・方向性	平成22年度 完了 過去問題を市HPに掲載し、各学校で活用し国語力向上を図ることで事業を完了とする。

創作文コンクール	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学生 開始時期:平成18年度 予算:765千円) 創作する楽しさを味わわせ、表現力の向上を図る。 児童・生徒から作文・詩等を募集し、優秀作品を表彰する。
実績等	応募者数 1,103人 (H21 1,214人) 部門 - 小学校(低・中・高学年)は作文・詩の6部門 中学校は作文・詩・短歌・俳句の4部門
点検	児童生徒の創作意欲を高め、表現力向上に寄与している。
評価	A
今後の課題・方向性	作品を募集する対象学年や部門について工夫を重ねながら、今後も継続して実施する。

【小中一貫英語教育の充実】

小中一貫英語教育	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校 開始時期:平成16年度 予算:11,380千円) ふるさと金沢について英語で発信できる力を身につけさせる。 小中学校9年間を見通した小中一貫英語教育カリキュラムを策定。 小学3～6年生の教育課程に「英語科」を開設、インストラクターを配置し、担任とチームティーチングを実施。3～5年生は市で作成した副読本を、6年生は中1用教科書を主たる教材として使用。 中学校では年間140時間の中で、教科書と市独自副読本を活用。 小学校では児童英検、中学校では英語能力判定テストを実施し、成果を把握・検証している。その他、教員の海外派遣研修を実施。
実績等	児童英検金沢市平均正答率 82.5% (H17 78.4%)過去最高 英検3級以上レベルと判定された生徒の割合 39.7% (H16 22.5%)
点検	児童英検や英語能力判定テストの結果は例年高い水準で推移しており、世界都市金沢を担う人材育成のためにも必要な事業である。
評価	A
今後の課題・方向性	新学習指導要領の全面実施に向けて、カリキュラム等を見直した上で、継続して実施する。

【金沢型小中一貫教育の研究】

小中一貫教育モデル事業の実施	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:モデル中学校区 開始時期:新平成22年度 予算:3,000千円) 小中学校間で目指す子供の姿を共有し、教育課程・学習規律・生徒指導等、様々な観点から小中学校9年間を見通した一貫性のある教育を実践する。 モデル中学校区において、3年計画で小中一貫教育のための教育課程づくりや組織づくり、授業づくり、人間関係づくりに取り組む。
実績等	校区のタイプが異なる3つのモデル校區で実践研究に取り組んだ。 (施設一体型)芝原中学校区、(校区一体型)緑中学校区、 (校区分離型)泉中学校区
点検	3年間の実践研究のための組織づくりや、小中学校間での目指す子供像の共有など、一定の成果が得られている。
評価	A
今後の課題・方向性	3年計画で実践研究を行うこととしており、今後の小中一貫教育のあり方を検討するため、継続して実施していく。有識者の意見や全国の事例等も反映させながら、内容の充実を図っていく。

【それぞれの子どもに応じた授業の充実】

へき地・複式学級に対する交流学习の実施	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小学校 開始時期:平成15年度 予算:330千円) へき地校や複式学級の児童に、集団での学びの機会を提供する。 教科交流学习や交流行事の実施のため、バスを借上。
実績等	複式学級を有する小学校7校を対象に年間6回(予算8回)の交流活動を実施。 (社会科見学・スポーツ交流等)
点検	へき地校や複式学級の児童に、社会性・協調性や競争心を育むための機会を意図的に創出する必要がある。
評価	B
今後の課題・方向性	交流学习の内容は随時見直しながら、今後も継続して実施する。
へき地複式教育研究会の実施	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校 開始時期:- 予算:0千円) へき地校や複式教育における教育のあり方を研究し、より効果的な指導を図る。 へき地校や複式学級を担当する小中学校の教職員が研修会を開催。 少人数の良さを生かした学びや、へき地校・複式学級の課題解決にむけて実践報告等を通して理解を深め、指導の改善に生かす。
実績等	研修会を年間4回実施 各学校の実践事例をまとめた研究紀要を作成、配布
点検	へき地校や複式学級での教育課題を整理し、その改善を図るとともに、特色を生かした教育を進めるために有効な研究を行っている。
評価	A
今後の課題・方向性	へき地校や複式学級における教育について研究し実践に生かすことは重要であり、今後も継続して実施する。

目標	元気なまち・金沢をつくる
基本方針	- 2 個性を活かした学校教育の推進
基本施策	特色ある教育の推進

【学校の自主性・自律性の向上】

学校総合訪問	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校 開始時期:- 予算:0千円) 学校の教育水準の維持向上を図る。 授業の様子や児童生徒の状況を確認とともに、教育課程の状況等学校教育全般にわたり指導助言し、同時に教職員と意見交換を通じて学校の課題解決を図る。
実績等	市立小中学校27校に訪問。
点検	地方分権や校長の裁量権拡大など、主体的自立的に学校運営や充実した教育実践を行うことができる学校づくりを進めていくためには必要である。
評価	A
今後の課題・方向性	市全体の学校教育の質を高めていく上でも、訪問回数や訪問内容等を見直して、継続的に取り組む。
実践研修拠点校について	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校 開始時期:平成20年度 予算:4,850千円) 学校マネジメント能力の向上を図る。 学校教育金沢モデルを充実するため、実践的な研修拠点としての体制づくりを行うとともに、学校マネジメント能力の向上を図る。
実績等	中学校 2校、小学校3校で実施
点検	主体的自律的な学校運営や充実した教育を実践できる学校づくりができた。
評価	A
今後の課題・方向性	H22年度で完了

【中学校学校選択制の実施】

中学校学校選択制	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内に住所がある中学校新1年生 開始時期:平成18年度中学校新1年生から 予算:1,137千円) 児童及び保護者の意思による学校選択(通学区域の弾力化) 小学校6年生の11月に保護者・児童の希望中学校を確認し、通学区域外の中学校を希望する場合、その学校の受け入れ枠(概ね学校あたり40人程度)以内であれば全員、受け入れ枠を超える場合は抽選により中学校を決定するもの。
実績等	通学区域外中学校選択者数 平成22年度(平成23年4月入学者)...3,924名中326名(8.30%) 平成21年度(平成22年4月入学者)...3,848名中297名(7.71%)
点検	通学区域外中学校選択者は対前年比0.59%増 希望者数が増加しており、制度として定着している。
評価	A
今後の課題・方向性	児童・生徒や保護者の多様な希望に応え、子どもの可能性を伸ばし、本市学校教育の充実・発展のため今後も継続する。

【学校図書館の充実】

学校図書館環境整備事業	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校、学校図書ボランティア 開始時期:平成13年度 予算:341千円) 小中学校における学校図書ボランティア活動の理解と定着を推進し、 地域人材を活かした学校図書館運営を行う。 学校図書ボランティアと連携し、児童・生徒への読み聞かせ等読書活動の推進、 学校図書館環境整備を図る。
実績等	学校図書ボランティア研修会開催 1回(2日間) 学校図書館ボランティア活動校及び活動者数 小学校 58校1分校 994人 中学校 18校 184人
点検	研修会参加者からボランティアの資質向上に役立つと評価を得ている。多数の ボランティアの協力により、魅力的な図書館作りが進められている。
評価	A
今後の課題・方向性	今後とも学校図書ボランティアと協力し、学校図書館の整備を進める必要がある。
本の先生派遣事業	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校 開始時期(新)平成22年度 予算:8,962千円) 図書館の専門知識を持った職員を派遣し、学校図書館の運営を支援する。 本の先生8人が全小中学校を巡回し、学校図書館の蔵書整備、教職員への支 援、児童生徒への読書推進活動を行う。
実績等	1校あたり月に2回全小中学校を巡回し、蔵書の整備を実施し、選書や学校図書 システム活用の助言を行った。
点検	学校図書ボランティアや市立図書館との連携により、魅力ある学校図書館づくり を進めるために、必要な事業である。
評価	A
今後の課題・方向性	児童生徒の読書活動を推進し、学校図書館をさらなる活用を図るため、巡回の頻 度を増す必要がある。
小中学校図書館図書更新	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校 開始時期(新)平成22年度(第7次計画) 予算:70,500千円) 学校図書館が適正な蔵書構成、蔵書冊数となることを目指す。 各校が年度予算範囲内において、適正な蔵書構成・冊数になるように児童生徒 用図書を購入する。各校司書教諭・図書担当者が中心となり購入図書を選書。
実績等	第7次学校図書整備計画に基づき、図書の増冊、古い図書の更新を行った。 小学校蔵書冊数 479,871冊 中学校蔵書冊数 252,830冊 文科省図書標準冊数充足率 小学校 89.8% (H21 86.5%) [H22目標値:91.0%] 中学校 85.5% (H21 82.2%) [H22目標値:86.4%]
点検	計画に基づき、学校図書館の蔵書冊数を増加させているが、再生不能の図書も 多く、年度の目標値に届かなかった。
評価	B
今後の課題・方向性	文科省図書標準冊数に達しておらず、平成22～25年度の第7次学校図書整 備計画に基づき、蔵書を増やす必要がある。

【体験キャリア教育の推進】

体験キャリア教育	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:中学校2年生 開始時期:平成12年度 予算:1,310千円) 正しい職業観・人生観を身につけ、進路について主体的に考える生徒の育成。 中学2年生を対象とした3日間の職場体験活動を実施。
実績等	すべての中学校の2年生が参加。 各学校ごとに、6月～11月に実施。
点検	事後のアンケートからも、中学生が自分の進路や職業を考える上で貴重な機会となっており、学習意欲を喚起する上でも有効な事業である。
評価	A
今後の課題・方向性	各事業所での中学生の受入について、地域の企業等との協力体制を強化するほか、事前・事後の学習も含めて生徒に職業観を持たせていく必要がある。

【文化教育の振興】

中学校文化連盟への支援	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内中学校 開始時期: 予算:2,100千円) 中学生の文化教育の振興と文化部活動の発展を図る団体を支援する。 各文化部の活動・交流を支援するため、当該連盟が行う各中学校文化活動の運営事業に対し交付金を交付する。
実績等	部活動運営・指導の支援。「部活動の日」の各部の講習会・鑑賞会の開催 各部のコンクール、発表会の開催。H22年度交付金 2,100千円
点検	学校間の部活動交流や発表会等によって、文化部活動の活性化にもつながっており、必要な事業である。
評価	A
今後の課題・方向性	生徒及び指導者がお互いに刺激し合い、活動を充実できるよう、文化部活動の活性化を図る観点からも今後とも継続する。
中学校文化活動魅力創出事業	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内中学校 開始時期:H14年度 予算:4,380千円) 中学生の文化教育の振興と文化部活動の発展を図る。 文化部活動外部指導者の派遣及び中学校文化連盟へ委託して部活動の成果発表の場の提供。
実績等	部活動外部指導者指導 12校 延15人 146時間 中学生文化創造夢空間2010の開催 11月14日 文化ホール
点検	部活動の充実や意欲の向上において有効であり、成果発表の場を設けることで、生徒が目標を持って活動を行うことにつながっている。
評価	A
今後の課題・方向性	連携した文化活動推進を行ったことにより、生徒の活動意欲が上がったことから今後も継続する。

小中学校連合音楽会の開催	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校 開始時期:昭和7年 予算:1,450千円) 舞台での音楽発表の経験を通し、児童生徒の豊かな情操を育む。 授業を中心とした学校での音楽の取組の発表の場として、各学校合同での音楽会を開催。
実績等	小学校 60校 12/7,8 金沢歌劇座 中学校 13校 12/6 金沢歌劇座
点検	大きな舞台での発表を体験できる機会として、各学校ではこの会を目標に教育実践を進めており、貴重な機会として定着している。
評価	A
今後の課題・方向性	大きな舞台での発表を体験できる貴重な機会となっており、今後も継続する。発表するだけでなく、鑑賞しあったり、講評を取り入れるなど、以後の指導に生かす工夫・改善が求められる。
小中学校合同展の開催	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内小中学校 開始時期:平成14年度 予算:1,420千円) 芸術教育に関する教育活動の成果を広く市民に発表する。 市内の全小中学校合同による図工・美術・書写・書道・華道の作品展を開催し、学校での取組の発表の場とする。H16年度より、金沢21世紀美術館で実施。
実績等	開催期間 H23.1.5～1.16 入場者数 28,379人 出品点数 8,414点
点検	8,000点を超える児童生徒の作品が出品され、入場者も非常に多く、児童生徒の制作意欲の向上に大きく寄与している。
評価	A
今後の課題・方向性	教育活動の成果を保護者や市民に伝えると同時に、児童生徒や学校にとっても目標となる事業として定着してきており、今後も継続して実施する。
小学校演劇鑑賞教室の開催	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内小学5年生 開始時期:昭和48年度 予算:4,520千円) 舞台芸術を鑑賞し、情操豊かな人間形成を目指す。 市内小学校5年生全員を対象として、演劇鑑賞教室を開催する。
実績等	第38回小学校演劇鑑賞教室「ルドルフとイッパイアッテナ」 公演回数6回5月18日～20日 会場 文化ホール 62校 児童数43,000人
点検	プロの演劇を間近に鑑賞することは、情操豊かな人間形成を図る上で貴重な機会となっている。
評価	A
今後の課題・方向性	情操豊かな人間形成を培うことができる有効な方法と考えており、今後も継続する。
中学校観能教室の開催	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内中学3年生 開始時期:昭和24年度 予算:3,020千円) 伝統ある郷土芸能の鑑賞を通じて、日本の古典に親しませ、郷土愛や豊かな人間性を培うことを目的とする。 市内中学校3年生全員を対象に、能と狂言の鑑賞教室を実施する。
実績等	第62回 能「殺生石」狂言「柿山伏」7月6日～8日 県立能楽堂 公演回数12回 31校 生徒数4,200人
点検	伝統芸能を間近に鑑賞することは、情操豊かな人間形成を図る上で貴重な機会となっている。
評価	A
今後の課題・方向性	郷土に誇りを持ち、情操豊かな人間形成を培う観点から今後も継続する。

【情報教育の推進】

小中学校情報化整備推進事業	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校 開始時期:平成13年度 予算:496,769千円) 高度情報化社会に対応できる人材の育成 文科省が指導するコンピュータ使用環境の整備(リースによる整備)
実績等	市立小学校10校分の更新。 小中学校に5,849台を整備
点検	順次機器の更新を行いながら新基準にあった配置をすることと、セキュリティの強化が必要不可欠である
評価	A
今後の課題・方向性	国の整備方針の動向も見据えながら、市の整備計画に基づき配置し、セキュリティの体制の強化も図っていく。
視聴覚・情報教育推進	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:学校、幼保育所、公民館等 開始時期:平成15年7月 予算:58,378千円) 教育プラザ富樫を拠点として、学習用教材(和楽器を含む)の貸出業務、情報教育教材、機材及び通信環境の整備を通じ、教職員の情報モラルの向上、授業・保育等の充実を図る。 ・市内小中学校等のインターネット通信網(edねっと金沢)の整備、保守、監視等 ・情報教育担当者会の開催、情報教育研修環境の整備 ・コンピューター研修室・教育情報支援室の運営、研修用貸出機材の整備、学習用教材の整備・保管・貸出・搬送 ・デジタル画像、動画等教材の制作
実績等	和楽器貸出実績 569個 教材貸出実績 435本 機材貸出実績 1,605台 教育情報支援室利用者数 1,299人
点検	情報教育用機材や健全育成、情操教育に関するソフト等について多数の利用があった。 コンピューター研修室のパソコンが老朽化し、研修受講者のニーズに必ずしも応えられていない。
評価	B
今後の課題・方向性	教職員への情報モラル教育について、一層の充実が求められる。 コンピューター研修室のパソコン機器更新等により研修内容を充実し、教職員の更なる情報モラル向上をはかる。

目標	元気なまち・金沢をつくる
基本方針	- 2 個性を活かした学校教育の推進
基本施策	多様な教育の推進

心の教育の推進	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校 開始時期:平成14年度 予算:20,500千円) 学校教育に関する児童生徒や保護者の不安・悩み等を軽減する。 ・スクールカウンセラーの配置 いじめや不登校などの児童生徒問題行動や人間関係の悩みに対応し、学校における相談業務を行う。 ・心と学びの支援員の配置 保健室などの別室に登校する児童生徒の相談や学習の支援を行う。 ・心の絆サポーターの派遣 問題行動や不登校等で、各学校だけでは解決が困難な複雑な事案等について、関係機関との連携を含めた対応を行う。
実績等	スクールカウンセラー配置 4校(小学校4) 心と学びの支援員配置 26校(小学校5、中学校21) 心の絆サポーター 2名配置、25校に派遣(小学校5、中学校20校)
点検	いじめや不登校に限らず、児童生徒の様々な悩みや問題行動にきめ細かく対応していくためには、様々な支援人材の活用が必要となっている。
評価	A
今後の課題・方向性	個々の問題が複雑化してきていることもあり、必要性の高い事業である。スクールカウンセラーや支援員の活用等、児童生徒や保護者・学校等のニーズを踏まえながら今後も継続していく。

人権・同和教育推進	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:教職員 開始時期:- 予算:600千円) 教職員の人権意識高揚と人権啓発の推進。 学校教育全般を通じて人権・同和教育の取組及び人権・同和教育担当者が中心となった校内での教職員研修を実施する。 人権・同和担当の指導主事を配置し、教職員の人権意識高揚と人権啓発の推進のための研修を実施する。金沢市同和教育研究協議会に対し支援を行う。
実績等	人権・同和教育についての研修会を実施。(プラザ富樫除く) 予算については、金沢市同和教育研究協議会に対する補助金
点検	小中学校において人権教育を進めていくことは必要不可欠であり、そのため教職員に対する研修等を積極的に行っていくことが必要である。
評価	A
今後の課題・方向性	今後とも学校教育全般を通じて人権・同和教育を推進していくため、教職員研修、学校訪問等での指導助言等は継続していく。

飼育動物の愛護	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小学校 開始時期:平成13年度 予算:1,200千円) 学校における動物飼育の安全確保と命の大切さを学ぶ 動物を飼育している小学校において、飼育に関し、訪問、相談、診察、治療等のサポートを行い、動物の大切に育てる児童の育成を図る。
実績等	学校への訪問・指導年2~4回程度
点検	動物の飼育を通じて命の大切さを教えることは、飼育活動が安全に実施されるためには有効であり、専門家の支援が必要である。
評価	A
今後の課題・方向性	多くの学校で動物の飼育が行われており、今後とも継続が必要。

【特別支援教育の充実】

支援人材の配置による校内支援体制の充実	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校 開始時期:平成17年度 予算:30,450千円) 特別な支援を要する児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう支援。 特別支援教育コーディネーターを中心とした各学校の校内支援体制を構築するとともに、補助員・サポーターを配置し、特別支援教育の充実を図る。 金沢市就学指導委員会を開催し、専門的な立場から就学についての指導・助言を行う。 ・補助員 通常学級において教育的・介助的な支援をする。 ・サポーター 校外活動や行事等で一時的に支援をする。
実績等	特別支援指導補助員 55校64人 時間数延べ31,903時間 特別支援学級指導補助員 7人、特別支援教育サポーターの配置 就学指導委員会審議件数 195件
点検	特別な支援を要する児童生徒は、年々増加する傾向にあり、個々に応じた教育を進めるために重層的・多面的な支援を行っていく必要がある。
評価	A
今後の課題・方向性	今後も、支援の充実、効果的・効率的な活用を図りながら継続する。 支援を要する児童生徒は年々増加していることから、支援人材の配置基準を見直し、適正な配置を図る必要がある。
特別支援学級・通級指導教室の設置、施設整備	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校 開始時期:平成14年度 予算:16,549千円) 児童生徒の発達や特性に応じた教育を行うための環境整備を行う。 新規に特別支援学級・通級指導教室を設置し、運営していく上で、必要な施設、器具の整備等を行う。
実績等	特別支援学級小学校12校12クラス、中学校7校7クラスが新規に設置され、必要な施設、器具の整備等を行った。 特別支援学級の状況(平成22年5月1日現在) 知的障害特別支援学級 小学校53校114人 中学校14校38人 情緒障害特別支援学級 小学校49校99人 中学校20校39人 肢体不自由特別支援学級 小学校20校24人 中学校3校4人 病弱・身体虚弱特別支援学級 小学校2校7人 中学校1校3人 ことばの教室 小学校5校148人 中学校1校7人 きこえの教室 小学校2校14人 中学校1校2人 LD・ADHD教室 小学校3校46人 中学校1校15人
点検	年々増加する傾向にある特別な支援を要する児童生徒に対し、個々に応じた指導を進めるために、特別支援学級の整備を行うなど環境整備の一層の充実が必要である。
評価	A
今後の課題・方向性	新特別支援学校学習指導要領では、障害の重度・重複化、多様化への対応のため、一人一人に応じた指導の一層充実を求めており、今度も、効果的・効率的に必要な施設、器具の整備等を継続して行っていく。

【不登校・問題行動への対応】

児童生徒健全育成対策事業	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校 開始時期:平成13年度 予算:2,100千円) 健全な児童生徒育成のための取組がより効果的に行われるよう、各学校内での活動や研究のほか、学校間での情報共有や連携を進める。 各校区でのパトロール活動、小中高校教職員間での意見交換、事例研究発表、児童生徒の指導資料の発行などを各学校の生徒指導担当教員等により組織された「小・中学校生徒指導推進協議会」に委託して実施。
実績等	各小中学校において生徒指導に関する研究等を行ったほか、市全体での研修会や担当者連絡会を開催し、生徒指導の充実を図った。
点検	小・中学校生徒指導推進協議会、教育委員会、教育プラザ富樫及びその他の関係機関が連携し、健全な児童生徒育成に向けた様々な取組を行っている。
評価	A
今後の課題・方向性	児童生徒を取り巻く環境は日々変化しており、継続的な生徒指導や情報共有が必要であることから、今後も学校間の連携を図りながら継続する。
適応指導教室事業「そだち」	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内不登校小中学生 開始時期:平成2年 予算:18,204千円) 不登校児童生徒の社会的自立と学校復帰 「富樫」「此花」の2教室において、市内に在住する不登校児童生徒を対象に、学習支援や対人関係を築く支援を行う。
実績等	平成22年度適応指導教室登録人数 43人 平成22年度適応指導教室通室延べ人数 1,955人
点検	「富樫」「此花」の2教室において、不登校の児童生徒への支援を行うことができた。
評価	B
今後の課題・方向性	個別の支援計画を充実し、児童生徒の社会的自立と登校復帰に向けて支援できるよう運営していく。
家庭訪問相談事業	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内不登校小中学生 開始時期:- 予算:2,835千円) 児童生徒の自立支援や学校への復帰 不登校の児童生徒のいる家庭に家庭訪問相談員が訪問し、継続的にかかわることで、児童生徒の自立や学校復帰を支援する。
実績等	平成22年度相談回数 12回
点検	家庭訪問相談員が家庭に訪問し、不登校児童生徒へ支援することができた。
評価	B
今後の課題・方向性	不登校児童生徒への支援は今後も継続して行っていくが、より柔軟により多くの支援ができるよう家庭訪問相談から来所相談へと移行する。

心の教育の推進 <再掲>	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校 開始時期:平成14年度 予算:20,500千円) 学校教育に関する児童生徒や保護者の不安・悩み等を軽減する。 ・スクールカウンセラーの配置 いじめや不登校などの児童生徒問題行動や人間関係の悩みに対応し、学校における相談業務を行う。 ・心と学びの支援員の配置 保健室などの別室に登校する児童生徒の相談や学習の支援を行う。 ・心の絆サポーターの派遣 問題行動や不登校等で、各学校だけでは解決が困難な複雑な事案等について、関係機関との連携を含めた対応を行う。
実績等	スクールカウンセラー配置 4校(小学校4) 心と学びの支援員配置 26校(小学校5、中学校21) 心の絆サポーター 2名配置、25校に派遣(小学校5、中学校20校)
点検	いじめや不登校に限らず、児童生徒の様々な悩みや問題行動にきめ細かく対応していくためには、様々な支援人材の活用が必要となっている。
評価	A
今後の課題・方向性	質・量ともに必要性の高い事業であり、スクールカウンセラーや支援員の活用等、児童生徒や保護者・学校等のニーズを踏まえながら今後も継続していく。

【外国人児童生徒への学習支援】

外国人児童生徒への学習支援	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内及び周辺の小中学校に在籍している外国人 開始時期:平成18年度 予算:120千円) 支援を必要とする外国人児童生徒が円滑に学校生活を送れるようにする。 ・学校における日本語による学習が可能な日本語能力を身につけるための学習 ・日常会話の基礎、日本の文化や生活習慣の理解を図るための学習 ・教科用語を含む日本語学習 ・日本語指導民間協力員の派遣
実績等	野町小(14名)、泉中(10名)で日本語教室を開設。 通級困難な児童生徒に対し、日本語民間協力員を派遣。 H22年度協力員1名 計1回派遣 対象児童1名
点検	児童生徒の学びを保証し、円滑に学校生活を送れるよう支援している。
評価	A
今後の課題・方向性	日本の生活や学習に適応するために支援する場が必要なため、今後とも継続する。

【健康教育の推進】

第2次健康教育推進プラン実践事業	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校 開始時期:平成21年度 予算:690千円) 行政・学校・家庭(地域)が連携し児童生徒の健康増進を図る。 金沢市健康推進プラン(第2次)に掲げる7つの健康課題について、行政・学校・家庭(地域)の連携のもと、実践的な研究を行う。
実績等	小学校3校、中学校4校にプランの健康課題について研究を行う。
点検	学校、家庭、地域が一体となって健康づくりを進めることができたほか、研究発表等を通して他の小中学校にも成果を還元している。
評価	A
今後の課題・方向性	平成22年度で終了となるが、事業内容を見直し、形を変えて実践事業を行う。

学校保健推進団体への助成	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:学校保健推進団体 開始時期:- 予算:1,100千円) 児童生徒の健康増進に寄与する。 金沢市学校保健会に対し、交付金を交付し、児童生徒の健康安全に関する指導の研究調査及び各種事業を行い、研究大会において考察・発表を行う。
実績等	学校保健会の運営事業に交付金を交付。よい歯のコンクール、子どもの健康フォーラム、学校保健研究大会の開催。年2回の会報を発行。
点検	児童生徒の健康安全に関する指導の研究調査及び各種事業を行い、研究大会において考察・発表を行うなど、児童生徒の健康増進に寄与した。
評価	A
今後の課題・方向性	児童生徒の健康増進に寄与した経緯からも今後とも継続する。
学校保健センター事業	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学生 開始時期:昭和57年度 予算:11,794千円) 学校保健のセンターとして児童生徒の健康増進を図る。 児童生徒の各種疾病や情緒障害等による体と心の障害について早期発見により適切な指導を行う。
実績等	心臓二次検診457人、健康相談138人、専門医派遣事業15回 心臓二次検診事業、健康相談事業、歯科巡回指導などの事業を総合健康センターに委託して実施。
点検	検診・健康相談及び講演会等委託事業の内容に関し、真に必要な事項について、より重点的に行うことにより、学校保健センターの有効利用を促進している。
評価	A
今後の課題・方向性	さらに事業内容の充実・重点化を図り、継続して実施する。
学校医等保健研究委託	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学生 開始時期:昭和54年度 予算:2,300千円) 研究分析を通して児童生徒の健康増進に寄与する。 学校保健事業の課題や今後の方向性について研究考察を行う。
実績等	金沢市医師会は各種検診結果の分析・考察を実施。金沢市学校薬剤師会は、薬の正しい使い方、冬季教室内空気検査に関する研修会を開催。
点検	検診データの分析や健康に関する研究及び学校における環境衛生に関する検査は健康教育、体力の向上に必要であり、欠かすことができない。
評価	A
今後の課題・方向性	これらの研究考察は健康教育、体力の向上に必要であり、今後も継続する。

目標	元気なまち・金沢をつくる
基本方針	- 2 個性を活かした学校教育の推進
基本施策	地域に開かれた学校づくり

【開かれた学校づくりの推進】

学校評議員の設置	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校、市立工業高校 開始時期:平成13年4月 予算:4,380千円) 地域に開かれた学校づくりに寄与する。 学校長の求めに応じて学校運営への助言を行う学校評議員を、教育に理解や見識のある保護者や地域住民等に委嘱する。
実績等	学校評議員269名を全小中学校、市立工業高校に配置 各学校で平均5回程度来校してもらい、学校の教育活動や地域との連携の進め方等について意見を聴取した。
点検	家庭や地域と連携したボランティア活動の活発化や、学校外での安全指導の強化等、学校評議員の意見をもとにした取り組みを行った。
評価	A
今後の課題・方向性	家庭や地域の意見を把握・反映し、地域に開かれた学校づくりを支援していくために今後も継続していく。
地域に開かれた学校づくりの推進	
事業内容	市民からの信頼に応え、家庭や地域と一体となって、金沢の子どもたちの健やかな成長を促すために「地域で育て、地域を育てる学校づくり」のための環境づくりを積極的に推移し、地域に開かれた学校づくりを推進する。
(1) スクールフォーラム21の開催<再掲>	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:教職員、地域住民、保護者 開始時期:平成11年度 予算:1,620千円) 学校・家庭・地域が一体となって、より良い学校づくりや子どもの健全育成を図る。 教職員と保護者、地域住民がともに学校づくりに取り組むための話し合いをすべての小中学校で実施。
実績等	開催校 市立小中学校84校(芳斎分校を含む)
点検	すべての学校で実施し、学校・家庭・地域が一体となって、より良い学校づくりや子どもの健全育成を進めている。
評価	A
今後の課題・方向性	開催時期や方法等、地域の実情に応じて工夫しながら、今後も継続していく。
(2) スクールモニター制の実施<再掲>	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:教職員、地域住民 開始時期:平成7年度 予算:800千円) 地域の協力を得て子どもの健全育成に取り組む。 学校外の子どもの様子等を学校に報告する地域ボランティアを配置する。
実績等	市立小中学校80校(小中併設校は1校と算出)で実施 1,916人
点検	地域の協力を得て子どもの健全育成に取り組むことができたほか、地域に開かれた学校づくりにもつながっている。
評価	A
今後の課題・方向性	学校、家庭、地域が連携し学校づくりを進めるため、今後とも継続する。

(3) 全市一斉「学校公開週間」の実施<再掲>	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校、市立工業高等学校、地域住民 開始時期:平成13年度 予算:-千円) 保護者や地域住民の学校に対する関心を高め、開かれた学校づくりを進める。 保護者や地域住民が気軽に学校や子どもたちの様子を参観する場を提供する。
実績等	市立小中学校84校(芳齋分校を含む)、市立工業高等学校で実施 5月31日~6月4日(5日間)15,113名
点検	保護者や地域住民の学校に対する関心が高まってきており、 開かれた学校づくりが進んでいる。
評価	A
今後の課題・方向性	各学校の実情に応じて開催時期や周知方法を工夫する等、参加者増のための 検討を行いながら、今後も継続して実施する。
スクールサポーターの活用	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校 開始時期:平成13年度 予算:5,510千円) 地域人材や学生等を活用し、児童生徒に多様な学びを提供し、理解を深める。 広く多様な人材を活用し、教員と共に授業を行うことで、児童生徒の興味関心を 高めるとともに、学習内容の定着を図る。
実績等	ゲストティーチャー(英語含む) 79校 延べ635人 2,138H ユースサポーター 22校 延べ158人 652H
点検	地域を題材にした学習や、伝統・文化等を扱う授業等においては、地域人材の 有効活用は必要不可欠なものとなっている。
評価	A
今後の課題・方向性	学習内容の充実や児童生徒の学習意欲向上につながることから、学校からの 要望も多く、今後も継続して実施していく。 謝礼金の単価については、他の支援人材と比較し見直しを図る。
特別非常勤講師制度の活用	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:専科教員不在の学校 開始時期:平成13年4月 予算:680千円) 各分野に秀でた人材を活用し、学校教育の充実を図る。 地域の人材や教員OBを特別非常勤講師として配置する。
実績等	特別非常勤講師活用校 小学校6校 延べ8人 220H 専科教員がない小規模校に、専門的な知識や技術を持った人材を配置した。
点検	優れた知識や技術を持った講師が指導を行うことにより、児童の意欲や技能を 高めることができた。
評価	A
今後の課題・方向性	専科教員の不在を補完するために学校からの要望も多く、今後も継続して 実施していく。

【学校施設の開放】

学校施設開放事業	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市民 開始時期:平成15年4月 予算:10,424千円) 子どもの健全育成を推進し、地域住民の健全なグループ活動を育成する。 学校施設を学校教育に支障がない限りにおいて市民の利用に供する。 平日夜間・休日の校舎・体育館などの学校施設を開放する。
実績等	開放校数:78校 ナイター:12校 開放日数:22,701日
点検	夜間照明施設を利用する運動場に関しては、生涯学習課が管理運営。 開放に係る電気錠修繕や施設修繕(夜間照明取替含む)費用が多くかかる。
評価	B
今後の課題・方向性	学校・地域と連携し、未開放校であった1校をH23年度から開放する。今後も、開放に向けて学校・地域に働きかけ、施設の活用を推進。

【外部評価の実施】

外部評価の実施	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校 開始時期:平成18年度 予算:800千円) 児童生徒、保護者及び地域住民等からの外部評価を受けることを通じて学校経営の改善を図る。 ・各学校が児童生徒の学習状況、教員の授業、教育課程の実施状況等の自己点検・自己評価を行った上で、児童生徒、保護者及び地域住民等からの外部評価を受ける。 ・校長会議や研修会等を通じて、学校評価の趣旨や方法等の周知を図る。 ・学校訪問を通じて、各学校の取組充実に向けた指導助言を行う。
実績等	それぞれの学校は、教育活動や学校運営全般にわたる自己点検・自己評価を行った上で、さらに授業の内容や理解、地域への学校の説明などについて、児童生徒や保護者、地域住民等からアンケート等を通じて意見を募った。
点検	法令上努力義務である学校関係者評価についても今年度から実施しており、開かれた学校づくりを進める上でも、学校評価の重要性は増している。
評価	A
今後の課題・方向性	学校に対する評価方法の確立と、適切な学校運営に繋がっていく評価について今後も検討しながら継続する。

目標	元気なまち・金沢をつくる
基本方針	- 2 個性を活かした学校教育の推進
基本施策	教員の資質向上

【研修プログラムの充実】

教職員研修事業	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中高教職員 開始時期:- 予算:9,033千円) 教職員の資質・能力の向上を図り、金沢市の教育の充実を図る。 ・経年研修、職能研修、専門研修、特別研修といった体系的な研修計画の策定と効果的な研修の実施。 ・初任者研修実施協議会の開催(年1回)
実績等	研修受講者数 7,396人 (112講座) 経年研修の強化として2年目研修、4年目研修、7年目研修を充実。 初任者研修において、初任者を支援するため学校へ出向いてのカウンセリングを年2回実施。 特別支援教育の課題をふまえ、特別支援教育補助員研修を実施。 学校現場のOJT体制の支援のため各校へ講師を派遣。 市立工業高校教員を雇用・能力開発機構へ派遣する「産業教育」を実施。
点検	今日的な教育課題に即応するための各種研修を実施し、より一層の指導力向上に資することができた。また、実技・実践研修をはじめ参加型研修を多く取り入れ研修効果を高めることができた。
評価	B
今後の課題・方向性	今後も講座の精選や内容の質的吟味をしつつ実践的な研修を進め、教職員の資質・能力向上をはかる。 匠塾の開催により先輩教職員から知識や技術を学び取る場を提供していく。
幼保小連携推進事業	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内幼稚園、市内保育所、小学校教諭 開始時期:- 予算:520千円) 幼稚園・保育所(園)と小学校の連携を進める中で、幼児教育と学校教育につながりを持たせ、滑らかな接続を図る。 ・幼保小の連携を実践・推進するため、幼稚園・保育所および小学校へ研究委託する。(幼稚園・保育所と小学校との連携のあり方を実践研究) ・子どもの発達の理解を深め、小学校の学びへのつながりを意識した合同研修の開催。
実績等	連携を目的とする幼稚園・保育所(園)と小学校で編成された実践グループ2団体による研究成果実践報告会開催。 各種研修会、講演会実施。
点検	子どもの発達と学びの連続性をふまえ、幼児教育と学校教育について相互理解を深め、それぞれのカリキュラムの特色を活かしつつ、各事業を通して連携することができた。
評価	B
今後の課題・方向性	幼保小の連携が強化されるよう研修内容等の質的吟味をおこなう。

目標	元気なまち・金沢をつくる
基本方針	- 2 個性を活かした学校教育の推進
基本施策	学校環境の整備・充実

【学校施設の耐震化】

学校施設の耐震化	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校施設 開始時期:平成8年度 予算:1,315,755千円) 小中学校施設の耐震化を完了させる。 地震防災緊急事業5カ年計画に基づき、昭和56年以前に建築された学校施設について耐震補強工事を実施する。
実績等	小学校施設:新豎町、花園、富樫、三和、緑小学校の体育館の耐震補強工事。 中学校施設:浅野川、高岡、鳴和、野田、西南部、紫錦台、金石中学校の校舎の耐震補強工事。
点検	施設の耐震化が図られた。 耐震化率 67.4%(H22.4.1) 71.4%(H23.4.1)
評価	A
今後の課題・方向性	金沢市学校施設整備計画検討会の報告を基本に、国の財源を出来るだけ活用しながら、早期の耐震化の完了を図る。

【小中学校施設の整備】

小中学校施設改築事業	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校施設 開始時期:平成21年度 予算:1,408,700千円) 老朽化した学校施設を改築する。 金沢市学校施設整備計画検討会の報告を基本に、昭和39年以前に建築された施設を順次改築する。
実績等	小立野小学校の改築工事に着手。 戸板小学校改築工事实施設計及び用地取得。
点検	施設の耐震化や教育環境の改善が図られた。
評価	A
今後の課題・方向性	学校施設の状況を見極めながら、地域の合意や諸条件が整い次第、国の財源を活用し、早期に老朽化した学校施設を改築する。
小中学校施設増築事業	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校施設 開始時期:平成21年度 予算:188,000千円) 必要な教室数を確保する。 児童数増加に伴う教室不足を解消するため校舎を増築する。
実績等	大徳小学校校舎増築工事(6教室)
点検	教育施設的环境改善が図られた。
評価	A
今後の課題・方向性	児童数の増加や、学級上限の引き下げの動向を見極めながら、必要に応じて適切に対応していく。

小中学校空調整備事業	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校施設 開始時期:平成14年度 予算:126,400千円) 平成24年度を目処に小中学校施設の空調の整備を完了させる。 小中学校の保健室、校長室、職員室に空調を整備する。
実績等	小学校:十一屋、新神田、伏見台、犀川、南小立野、押野、米丸小学校の7校に空調を整備。 中学校:額、芝原、内川中学校の3校に空調を整備。
点検	教育施設的环境改善が図られた。
評価	A
今後の課題・方向性	平成23年度整備完了を目指す。

【安全管理の推進】

学校における児童・生徒の安全確保のための安全管理対策の充実	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学生 開始時期:平成13年9月 予算:15,540千円) 登下校時、学校内、学校行事における児童生徒の安全確保を確保する。 学校行事日の受付業務、オートロック・テレビドアホンの設置、学校合同行事の警備、子ども見守りボランティアへの活動支援等
実績等	オートロック・テレビドアホンの設置・・・小学校3校、中学校4校 64校(H22.4.1) 71校(H23.4.1) 子ども見守りボランティアへの支援・・・(6,389人ボランティア保険に加入)
点検	オートロック・テレビドアホンの設置、施設の改善を行うことができた。 子ども見守りボランティアへの活動支援を行い、児童生徒の安全確保に努めた。
評価	A
今後の課題・方向性	引き続き、児童生徒の安全確保のため、実施事業について、警備等のソフトと施設改良等のハード双方の視点から継続して行う。

【給食施設の整備】

共同調理場整備事業	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:共同調理場施設 開始時期:平成8年度 予算:44,450千円) 老朽化した施設の延命化や施設の衛生管理の水準を高めるために、調理場の新設も含めた施設の統廃合及び既存施設の改修を行う。 共同調理場の整備を行う。
実績等	今後概ね10～15年間程度の学校給食調理場の再整備計画を策定した。
点検	学校給食施設の整備を通じて教育環境の改善が見込まれる。
評価	A
今後の課題・方向性	今後再整備景気悪の詳細検討を進めていき、個々の施設の具体的な整備計画を策定していく。

【私立学校、幼稚園への支援】

私立幼稚園運営補助	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:私立幼稚園 開始時期:昭和32年度 予算:運営費111,000千円、心身1,176千円、夢ステ5,450千円、預かり6,300千円) 私立幼稚園教育の振興及び経営の安定、健全性の促進 ・私立幼稚園等運営費補助:私立幼稚園への運営費補助 ・私立幼稚園心身障害児幼稚園運営費補助:心身障害児が1人在園している私立幼稚園への運営費補助 ・金沢子育て夢ステーション事業費:私立幼稚園が開催する子育て支援事業に必要な経費補助 ・私立幼稚園預かり保育推進事業費補助:私立幼稚園での休業日及び平日の預かり保育に必要な経費補助
実績等	補助金交付園数 ・私立幼稚園等運営費補助 37園 ・私立幼稚園心身障害児幼稚園運営費補助 3園 ・金沢子育て夢ステーション事業費 27園 ・私立幼稚園預かり保育推進事業費補助 25園
点検	幼児教育の振興及び学校経営の安定化が図られた。
評価	A
今後の課題・方向性	私立幼稚園の教育内容の充実のため、今後も継続する。
私立幼稚園施設整備補助	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:私立幼稚園 開始時期:平成11年度 予算:施設整備2,400千円、子育て0千円、耐震0千円) 幼稚園児の教育環境の充実 ・私立幼稚園施設整備事業費補助:施設整備費の一部を補助 ・私立幼稚園子育て支援施設整備費補助: 子育て支援施設整備費の一部を補助 ・私立幼稚園施設耐震診断費等補助: 施設の耐震診断・耐震設計費の一部を補助
実績等	補助金交付園数 ・私立幼稚園施設整備事業費補助 3園 ・私立幼稚園子育て支援施設整備費補助 0園 ・私立幼稚園施設耐震診断費等補助 0園
点検	幼稚園施設の充実が図られた。
評価	A
今後の課題・方向性	私立幼稚園の教育内容の充実のため、今後も継続する。
私立学校運営補助	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:私立小中高等学校 開始時期:小中学校 昭和32年度、高等学校 昭和56年度 予算:小学校3,400千円、中学校6,800千円、高等学校11,030千円) 私立学校教育の振興及び経営の安定、健全性の促進 ・私立小中高等学校運営に必要な経費の補助
実績等	・私立小学校 1校、私立中学校 2校、私立高等学校 6校
点検	学校運営の安定化、市民のニーズに応える学校づくりと教育条件の維持向上が図られた。
評価	A
今後の課題・方向性	少子化や教職員の給与制度見直しなどの環境変化を踏まえ、補助水準の適正化を図る必要がある。

目標	元気なまち・金沢をつくる
基本方針	- 2 個性を活かした学校教育の推進
基本施策	市立工業高等学校の整備・充実

【学校の活性化と授業力向上】

授業力評価委員による学校訪問	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市立工業高等学校教員 開始時期:平成18年4月 予算:520千円) 市立工業高等学校の活性化と教員の授業力の向上を図る 各分野の大学教授等を委員に委嘱し、学校運営や授業改善について 評価や助言を受ける。
実績等	年度末の全体会も含め、8名の委員により、延べ20回の来校があった。 委員からの意見により、教員同士が課題を共有する取り組みを行うとともに、 早めに日程を連絡するよう改善した。
点検	金沢市と大学等との連携協定に含まれる、「魅力ある授業づくりプロジェクト」を 推進する上において、各委員による学校訪問がベースとなっている
評価	B
今後の課題・方向性	訪問のタイミングの調整など年間を通じたスケジュールで計画し、 PDCAサイクルを構築することと、評価委員の増員。
市立工業高等学校教育改革推進委員会の開催	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市立工業高等学校 開始時期:平成20年4月 予算:240千円) 「工業教育金沢モデル」の各事業の進捗に関する検証や今後の事業の方向性を 確認する。 ものづくり教育に関することなどを検討
実績等	2回(12月および1月)に開催
点検	「工業教育金沢モデル」の各事業に一定の目処がつくまで、 委員会の開催が必要である。
評価	B
今後の課題・方向性	デュアルシステムの実施、学科改編など、工業教育金沢モデルの 進捗や今後の方向性について引き続き検討していく。
教育研修センターへの派遣等 教育研修	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市立工業高等学校教員 開始時期:- 予算:約1,400千円) 教員の資質向上を図る 専門教育機関等が実施する教育研修へ参加
実績等	教員9名が各教科の教育研究会などに参加 11～12月には大阪市立都島工業高等学校へ長期派遣研修を実施
点検	限られた予算の中で活用されている。
評価	B
今後の課題・方向性	高校に対応した内容、工業に特化した内容、先進的取り組みの事例など、 教育プラザ富樫の開講講座に網羅されない内容について個別対応し、 自主的な学会等への派遣を促進する必要がある。

【ものづくり教育の充実】

工業人養成企業実習の試行実施	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市立工業高等学校就職希望の2年生 開始時期:平成21年度 予算:210千円) 職業人としての厳しさ・心構え等や、工業人としての基礎的な技術の習得を図る。 2週間の企業実習に参加する。
実績等	夏季休業中の8月17日から27日の2週間の期間、参加生徒10人が受入企業である8社において企業実習を行った。
点検	参加生徒並びに受入企業にアンケートを実施した結果、生徒・企業とも有意義な実習であったとの感想が得られた。
評価	B
今後の課題・方向性	平成23年度からの本格実施に向け、参加生徒や受入企業の増加を図るため検討協議会での議論を踏まえ、より実効性の高いものにして行く。
民間技術者を活用した多様な授業の実施	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市立工業高等学校生徒 開始時期:平成16年度 予算:19,693千円) 民間技術者を教諭や講師に任用し、実社会の経験を活かした授業・実習を行う。 1年を通し、建築科・土木科に教諭を各1名任用、また機械科に高度な技術を持った熟練技能者を講師として2名招聘する。
実績等	建築科・土木科は教諭として任用、機械科は溶接実習及び旋盤実習に講師として各1名を民間より招聘した。
点検	ものづくりコンテストの成績の向上や資格取得数の増加につながった。
評価	A
今後の課題・方向性	今後も高度な技術を持つ民間技術者を招聘し、ものづくり教育の充実を図る。
職人大学校との連携や金沢工業大学・金沢美大との交流を実施	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市立工業高等学校生徒 開始時期:連携、平成16年度 交流、平成21年度 予算:2,450千円) 匠の技やデザイン・アイデアを学び、ものづくりの感性を磨く。 職人大学校と連携し、匠の技を継承する職人から優れた木造建築を学ぶ。 金沢工大、金沢美大との交流によりロボット技術やデザインを学ぶ。
実績等	建築科生徒が3名の講師より、工業基礎・課題研究等の講義を受けた。 機械科生徒が金沢工大生よりロボット製作の指導を受けた。 希望した生徒が、金沢美大准教授よりステンドグラスデザインの指導を受けた。
点検	ものづくりコンテストの成績の向上につながった。 新校舎スカイウォークにカットニングシートでステンドグラスの作成につながった。
評価	A
今後の課題・方向性	今後も職人大学校との連携や大学との交流を実施し、高度な技術の習得とものづくりの感性に磨きをかける。

「ものづくり高校発信講座」の開催

事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:県内の中学生 開始時期:平成21年度 予算:350千円) 中学生にもものづくり教育への関心を高めてもらう。 近隣中学校2年生の生徒に対し、学校紹介や課題研究の成果などを発表しものづくり教育への関心を持ってもらう「出前講座」を開催する。
実績等	2月に緑中学校、港中学校、大徳中学校の3校で出前講座を開催した。
点検	講座終了後、中学生にアンケートを実施した結果、約8割の生徒から本校への関心が高まったと回答があった。
評価	A
今後の課題・方向性	今後は本校で開催している課題研究発表と、出前講座を一体化した発表会を開催し、市立工業高校の魅力をより一層発信して行く。

【21世紀にふさわしい学校づくりのための施設整備】

改築工事	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市立工業高等学校施設 開始時期:平成12年度 予算:1,977,093千円) 21世紀における新しいものづくりと人材育成に対応可能な教育環境の整備 市立工業高等学校の改築
実績等	第3期工事の完了 第4期工事の着手
点検	施設の耐震化及び教育環境の改善が図られた。
評価	A
今後の課題・方向性	平成24年度末の事業完了を目指す。

平成22年度 金沢市教育委員会主要事務概要

目標	元気なまち・金沢をつくる
基本方針	- 4 生涯にわたる学習環境の支援
基本施策	生涯学習機会の充実

【生涯学習の推進】

市民大学講座の開催	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:一般 開始時期:昭和52年度 予算:4,770千円) 各界で活躍中の著名人・学識者の生き方・考え方を通し、市民が夢や志を実現することの可能性への指針を見出し、また、市民の生涯学習の意識を育む。 今日的課題について、各界の著名人を招き、市民講座を開催し、学習の場を提供する。
実績等	講演会6回実施。受講者数延べ3,966名。 講座開始前に前売りチケットが完売。
点検	20年度から開始したインターネット等による予約販売を引き続き行い、また、手話通訳を取り入れる等、受講生拡大を目指した。受講者数は前年度の約20%増となった。
評価	A
今後の課題・方向性	今後も多くの市民への多様な学習機会を提供し、受講者数の拡大を図るため、アンケートの実施に基づく講師選定や、内容の見直しと充実化に努める。
女性教育の推進	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:地区公民館振興協力会(1学級20名以上)、校下婦人会連絡協議会 開始時期:昭和32年(女性学級)、昭和28年(校下婦人会連絡協議会への補助)、平成5年(女性ふれあいトーク) 予算:2,700千円(女性学級)、4,010千円(校下婦人会連絡協議会への補助)、150千円(女性ふれあいトーク)) 女性の学習機会の充実と社会参加の促進、地域教育力の向上を図る。 女性が計画的・継続的に学びあう学習の場を提供し、学級の運営を支援する。
実績等	女性学級の開催:学級数55、学級生数延べ3,111人 校下婦人会連絡協議会への助成:補助金4,010千円 女性ふれあいトークの開催:3ブロック(湖南、中央、城東地区)
点検	女性が学び合うことのできる学習機会を提供することで、社会参加の促進と地域教育力の向上につながった。
評価	B
今後の課題・方向性	女性学級:地域の実情に沿った自由な学級運営ができるよう見直しを図っていく。 校下婦人会連絡協議会への補助:地域社会活動の一端を担う金沢市校下婦人会連絡協議会への補助を通して、豊かな地域づくりと女性の地位向上を目指す。 女性ふれあいトーク:女性が市政やまちづくりについて、市長と直接語り合う機会であったが、事業効果を達成したとして、平成22年度で事業が終了した。

家庭教育の推進	
事業概要	PTA活動振興：(対象：PTA活動従事者(各学校のPTA役員)等 開始時期：昭和22年 予算：2,110千円) 家庭教育学級：(対象：小中学校育友会、PTA、保育所の保護者会等 開始時期：平成10年 予算：6,690千円) かなざわ親塾(対象：保育(幼稚)園児から中学生までの子どもをもつ保護者等 開始時期：平成21年4月 予算：2,990千円)
(目的、目標)	PTA活動振興：青少年の健全育成及び会員の資質向上をめざし、家庭教育の向上や、家庭・学校・地域の連携を推進し、子どもの生き抜く力とゆとりを育むPTA活動の振興を図る。
(内容)	家庭教育学級：家庭教育学級の開設を委託し、家庭教育の啓発及び地域の教育力向上を目指す。 かなざわ親塾：心と命を大切にす豊かな人間性をもった子どもたちを育てるため親自身が気づき、学び、成長するための学習機会を提供する。 PTA活動振興：市から補助金を交付することにより円滑な事業実施を推進する。また、県内外の先進PTAとの研修交流活動の参加促進や、様々な教育上の課題に対して家庭・学校・PTA相互の連携を図る。 家庭教育学級：小中学校等の保護者会へ家庭教育学級の開設運営を委託し、子どもを育む行動計画を基にした家庭教育学級活動を推進する。 かなざわ親塾：小中学校入学前の保護者向け入学前セミナーのほか、父親の子育て支援講座、家庭教育出前講座を開催する。
実績等	PTA活動振興：金沢市PTA協議会へ2,040千円交付。 金沢市PTA・育友会役員研修会参加者計276名。ブロック研修会参加者計489名。第54回金沢市PTA研究大会参加者1,025名。 家庭教育学級：学級数113、学級生数延べ24,713人 かなざわ親塾：入学前セミナー、情報モラル出前講座、父親の子育て支援、企業・地域への家庭教育出前講座。計78回実施
点検	PTA活動振興：PTA活動の振興を継続して推進したい。また、各種研修・大会の参加者増を図りたい。 家庭教育学級：家庭の教育力向上や家庭・学校・地域の連携につながった。 かなざわ親塾：親子の絆づくりのきっかけになったと好評であった。
評価	B
今後の課題・方向性	PTA活動振興：教育委員会事業の周知や意見交換、PTAのブロック研修活動への支援等を重視していきたい。 家庭教育学級：家庭教育学級担当者研修会の内容をより充実させ、各学級の学習内容を充実させる。 かなざわ親塾：活動報告をパンフレットに掲載し、PRを図る。

【公民館の整備・学習内容の充実】

中央公民館の運営	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:中央公民館長町館、彦三館 開始時期:昭和23年8月 予算:41,269千円) 生涯学習のための拠点施設として、知識・教養を高めるための事業や学習の場を提供し、自主的な学習活動を支援する。 自主事業(生涯学習講座・高砂大学校、大学院)の運営、生涯学習活動を行う団体への貸館、自主グループ(自主事業受講修了者(合唱団等))の活動支援
実績等	- 1生涯学習講座:5回講義で1講座とし2回(春・秋)実施 延べ434人受講 - 2高砂大学校 - 月・水・金クラス 各33回、入学者419人、修了者392人 - 3高砂大学院 - 歴史民俗・花樹園芸・文学美術・悠々健康の4科 各26回 入学者424人、修了者397人 館利用者数 - 長町館:63,869人 彦三館:167,687人 計231,556人 中央公民館合唱団、コーラス円、高砂大学校同窓会の活動補助
点検	- 1生涯学習講座は市民のニーズと合致し、好評であった。 - 2、3高砂大学校・大学院については、アンケート調査結果から、豊富な講義内容・仲間づくりができる等の理由から受講者の9割以上が「満足」と答え、好評であり、他都市類似事業と比較しても充実している。 前年度に比べ、利用人数が増加。 他の生涯学習団体の範となる活発な活動を展開している。
評価	B
今後の課題・方向性	- 1生涯学習講座:長年、市民ニーズに対応した講座を実施してきたが、民間でも類似の講座を実施していることから、23年度から廃止とした。 - 2、3高砂大学校・大学院:学習機会が限られる高齢者を対象とした体系的な講座は有意義であり、生きがいづくりにも寄与していることからカリキュラムに工夫を加えながら事業を継続する。 市民の生涯学習活動推進のため、引き続き貸館が必要である。 合唱団:市内の合唱団をリードし、音楽文化向上のため、活動補助が必要である。 高砂大学校同窓会:高砂大学校、大学院を修了後の生涯学習の場として、また高齢者の生きがいづくりの場として運営補助が必要である。

公民館フェアの開催	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市民 開始時期:平成6年2月 予算:2,982千円) 生涯学習の拠点である市内の全公民館が、年に1回一堂に会し成果を発表し、公民館相互の協調連帯を図るとともに、新たな学習機会の創造に資する。 創作作品展(地区公民館全館及び中央公民館2館の自主グループ) コーラスフェスティバル(地区公民館で活動する出演希望の合唱団体及び中央公民館の自主グループ) 芸能フェスティバル(地区公民館7ブロック×2団体及び中央公民館で選抜された自主グループ) 上記 ~ に併せて金沢市公民館大会も開催
実績等	平成23年2月19日(土)、20日(日)開催。入場者数7,170人。公民館大会は第48回目。 地区公民館 60館、中央公民館2館の自主グループ 14団体、内灘町・高岡市(都市間文化交流) 合計 2,028点 出品 22団体、593人出演(高岡市を含む) 18団体、298人出演(内灘町を含む) 【入場者数】 3,330人 1,210人 1,220人 大会1,410人 合計7,170人 上記の他、下記の内容実施 ・金沢市公民館連合会創立60周年記念大会 - 記念講演あり ・都市間文化交流-内灘町、高岡市の参加
点検	入場者も増え、中央公民館および地区公民館で活動している合唱・伝承芸能・文化サークル等の発表により公民館相互の連帯感が深まり、意義があった。
評価	B
今後の課題・方向性	今後も、各公民館相互の協調と連携を深めるため、フェアの開催は必要であり、各公民館が企画段階から参加する等、内容をさらに充実させていくことも重要である。また、新たな学習機会の創造に資するため公民館関係以外の入場者数の増加も大切であり、一層の広報に努める。
公民館職員の研修、活動支援講座の開催	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:公民館職員・役職員 開始時期:昭和24年度 予算:190千円) 公民館職員・役職員の資質向上 公民館職員を対象に、研修や教養講座を開催し、様々な市施策や時事問題等について学ぶ。また、公民館役職員を対象に、地域づくりのための企画立案や地域リーダー育成のための講座を実施。
実績等	・地区公民館主事等研修・一般教養講座...10回 延べ513名参加 ・社会教育主事講習...公民館主事2名を派遣 ・地区公民館役職員・指導者養成講座...2回 延べ118名参加
点検	公民館関連の法令のほか、市の施策や防災・おもてなしといった比較的関心の高い内容を中心に学び、公民館職員・役職員の資質向上が図られた。
評価	B
今後の課題・方向性	公民館が多様な役割をもつようになっており、時代のニーズに合った研修テーマを設定することで、公民館職員としてより一層の資質向上を図る。

地区公民館の地域団体による管理・運営	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:各地区公民館 開始時期:昭和22年度 予算:596,360千円) 地域における生涯学習の推進及びコミュニティの活性化 各地域主導で運営を行う「金沢方式」により、地域のニーズに即した公民館運営を行う。
実績等	公民館3大事業(文化祭、社会体育大会、成人式)以外にも、地域独自の文化や伝統を活かした事業を実施。 H22年度管理・運営費:595,787千円
点検	地域の社会教育団体である各地区公民館振興協力会を指定管理者として地域に根ざした公民館管理・運営を行い、生涯学習推進とコミュニティ活性化の前進が見られた。
評価	B
今後の課題・方向性	「金沢方式」による公民館運営のノウハウを活かすとともに、時代の変化に対応しながら、住民の視点に立った生涯学習・地域コミュニティの拠点として発展することを目指す。

地区公民館の改修整備	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:各地区公民館 開始時期:昭和25年度 予算:204,550千円) 社会の変化に対応できる学習体制の拡充。 生涯学習環境の整備と機能の充実(施設備品整備・バリアフリー化・移転新築等)。
実績等	・施設備品整備(40件) ・バリアフリー化(3件) ・犀川、夕日寺、鞍月、湖南、長土堀の各公民館の移転新築等
点検	地域の意見を反映した施設等整備が実施できた。
評価	B
今後の課題・方向性	目標達成に向けて、最小限の費用で最大限の効果をあげられるように市と地域が情報交換を行いながら、早急な整備を推進する。

【生涯学習施設の機能強化】

生涯学習施設利用予約システム	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:生涯学習施設利用者 開始時期:平成15年4月 予算:2,460千円) 生涯学習施設の空室状況、予約申込等手続の簡素化を図り利便性を向上させる。また、抽選機能により、申込開始時の混雑を解消する。 インターネット上の生涯学習施設利用予約システムを利用することにより、簡便・迅速な予約申込が可能になり、より多くの利用者が見込まれている。 平成21年12月から新システムへ移行
実績等	施設利用件数の計が16,047件となり、昨年度より増加している。
点検	インターネット人口の増加といった社会的な背景や、空室状況を検索・予約できるという利便性により、今後ますます利用者が増えると思われる。
評価	B
今後の課題・方向性	今後とも安全かつ安定したシステム運営と、システム維持経費の効率化に努める。併せて更なる利用者数の増加を目指す。

生涯学習施設の管理・運営	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:キゴ山青少年教育施設(少年自然の家、天体観察センター、ふれあいの里)、長土堀交流館 開始時期:昭和51年6月 予算:122,885千円(キゴ山3施設)、3,795千円(長土堀交流館)) 生涯学習施設の効率的かつ円滑な管理・運営による利用者増加。 各種事業の実施及び貸館事業等による生涯学習施設の利用促進。
実績等	中央公民館利用者数:231,556人 キゴ山少年自然の家利用者数:12,421人 キゴ山天体観察センター利用者数:11,761人 キゴ山ふれあいの里利用者数:29,171人(うちビジターハウス:15,544人) 長土堀交流館利用者数:24,207人
点検	概ね利用者数は増加している。
評価	B
今後の課題・方向性	各施設において今後とも適切な施設維持に努め、更なる利用者増加を目指す。 また、施設の老朽化は今後の課題と言える。
絆の森	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小学校 開始時期(新)平成22年6月 予算:3,000千円) 旧牧草地を森に戻すために植樹活動を行う。共同作業を通して絆を深める。 キゴ山「絆の森」において苗木やシンボルツリーの植樹、自然環境に関する説明
実績等	参加校:9校、植樹数:726本
点検	多数の参加する学校があり、726本植樹できたが、「絆の森」には粘土質の箇所や多数の石が転がっている箇所がある。
評価	B
今後の課題・方向性	植樹の場所や今後の管理方法、冬にむけての作業等を検討する必要がある。

【図書館の整備・充実】

資料整備及び普及活動	
(1) 玉川図書館	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:一般 開始時期:昭和5年7月 予算:355,478千円) 多様な市民ニーズに応えた良質な資料を提供することにより市民の教育と文化の発展に資する。また、図書館からの遠隔地にも配慮した市全域にサービスを提供し、市民全体の図書館をめざす。 ・読書活動を推進する自主事業(ブックリスタート)の実施 ・遠隔地への自動車文庫の巡回 ・学校、団体、各種施設に資料を貸出し ・ボランティアを育成し、市民と協働した図書館づくり
実績等	資料購入冊数:玉川 10,198冊、城北 1,966冊、BM 1,422冊 貸出冊数 :玉川 428,737冊、城北 142,681冊、BM 48,872冊 貸出利用者数:玉川 124,749人、城北 34,275人、BM 7,726人 (玉川...玉川図書館、城北...城北分館、BM...自動車文庫) 自動車文庫巡回37カ所、遠隔地小学校巡回4カ所 配本所・団体貸出40カ所、読書会6回、ブックリスタート事業12回 図書館システムを再構築し、サービスの向上を実現
点検	市民のニーズや図書館の収集方針に則した図書資料の購入に努めた。 貸出冊数、利用者数は昨年度をわずかに下回った。 自動車文庫など図書館から遠隔地へのサービスを継続した。 朗読会やナイトライブラリーなど読書の魅力を伝える事業を実施した。 図書館システムのリニューアルを計画どおり完了した。
評価	B
今後の課題・方向性	海みらい図書館開館により、貸出利用者数の減少が見込まれる。 まちなかの立地を活かしながら、図書の魅力をアピールする事業を研究する。 引き続き、遠隔地の市民にも読書の楽しみを広めるため、自動車文庫などの巡回サービスを増設していく。 老朽化した施設設備のメンテナンスに努める。
(2) 泉野図書館	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:一般 開始時期:平成7年4月 予算:297,914千円) 一般図書、児童書及び視聴覚資料等を幅広く収集し、公開することを通じて、市民の知識教養を高めるとともに、専門的調査研究に資する。 ・おはなし会、映画上映会、コンサート等自主事業の実施 ・点字、録音図書の貸し出しなど視覚障害者サービスの実施 ・国連寄託図書館の運営など
実績等	資料購入 泉野 17,960冊 平和町児童図書館 782冊 貸出冊数 泉野 1,143,918冊 平和町児童図書館 24,298冊 貸出利用者数 泉野 254,820人 平和町児童図書館 7,551人 自主事業実施状況:コンサート演劇各2回、映画会14回、定例おはなし会98回 おはなし招待席16回、らいぶらりー・かふえ7回
点検	貸出冊数はわずかに下回ったが、利用者数が昨年度を上回り概ね目標を達成した。新たに開催した、らいぶらりー・かふえの参加者も定員に達し、それに伴い入館利用者も増え生涯学習の推進に成果を出すことができた。
評価	B
今後の課題・方向性	今後も市民のさまざまなニーズに対応するために、特に視聴覚資料や障害者用資料等の充実を図りたい。また、地域に開かれた図書館をめざすべく自主事業を積極的に開催していきたい。

(3) 玉川こども図書館	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:一般 開始時期:平成20年11月 予算:152,231千円) 子どもの読書活動を総合的に推進する拠点としての図書館活動 学校や地域と連携を深めながら子どもの読書環境の整備や読書活動を推進 ・児童に対する読書の普及活動(金沢市子ども読書推進プラン21の推進) ・学校図書館や地域文庫、その他子ども読書団体との連携・支援 ・各種団体を図書館へ招待 ・図書館ボランティアの育成、研修 ・各種イベントの計画と実施 ・はじめまして絵本事業の実施
実績等	資料購入冊数 5,021冊、学校支援 1,028冊、貸出冊数 338,371冊、 団体貸出 851件、31,393冊、貸出利用者数 61,672冊、入館者数 206,985冊 事業実施状況 ・ふれあい親子読書講座2回、講演会2回、ふるさと読書フォーラム1回、 ようこそ赤ちゃん絵本ルーム17回 ・学校図書館ボランティアのためのはてな解決講座3回、 幼稚園教諭・保育士対象絵本講座1回 ・幼稚園・保育園招待44回、児童クラブ招待10回、小中学校招待61回 ・芸術・文化プログラム53回、玉川こどもシアター6回、子どもふるさと学習講座3回 ・大きなおはなし会8回、あべ弘土原画展、ポローニャ世界の絵本展inかなざわ、 小中学校美術作品展、絵本の時間321回、おはなし会185回
点検	子どものための専門図書館として平成20年に開館して以来、入館者数、貸出 利用者数、貸出冊数全て順調に伸びている。平成22年10月からは、乳児期から 絵本に親しみ、親子の絆を育む「はじめまして絵本事業」を開始し、スムーズに 事業を実施することができた。
評価	A
今後の課題・方向性	今後も子どものための専門図書館としての機能を引き続き伸ばし、多くの子ども や親子に親しまれる図書館を目指す。「はじめまして絵本事業」を通年で実施 し、乳児期からの読書習慣の定着を進める。学校図書館司書の配置に伴い、 学校図書館の支援を充実させていく。
(4) 近世史料館	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:一般 開始時期:平成11年11月 予算:25,792千円) 市民の財産である地域の歴史史料を、よりよい状態で保存し後生に伝える。 また、資料の充実にも努め、広く市民の調査研究に供する。 ・史料の補修、マイクロフィルム化、CD化による史料保存 ・史料の購入収集による史料の充実 ・所蔵資料の翻訳(原本どおりに活字を組み出版)による利用の利便化
実績等	絵画・補修75枚、古文書補修2,098枚、史料マイクロ化51,000コマ、 絵画・地図CD化21画像、旧上金石町役場文書・二木文庫目録刊行、 温故集録(五)刊行、古文書講座44回開催 史料掲載許可件数132件、常設展示5回
点検	保存史料の整備を計画どおり実施し、市民の利用に供した。 古文書講座や常設展を開催し、歴史資料への理解を深めた。
評価	B
今後の課題・方向性	専門的な歴史研究から生涯学習に至るまで古文書史料の様々なレベルの ニーズに対応できるよう職員の資質向上を図る。 魅力ある史料群の保有を研究者にアピールするため、ホームページの改善など 広報活動の充実を図る。

新図書館の建設・整備	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:一般 開始時期:平成19年度 予算2,563,185千円) 西部地区を主なサービス対象エリアとしながらも、全域サービス網の核となる図書館として、金沢海みらい図書館の整備を推進 【経緯】 平成19年度 整備基本計画の策定 平成20年度 基本・実施設計 平成21年度 建設工事着手 平成22年度 建設工事完了 【総事業費】約45億円
実績等	建築、設備及び外構工事の完了 開館時点における図書資料の購入・整備の完了 (開館時蔵書:171,625冊)
点検	新図書館開館の施設及び資料の整備を完了することにより、図書館サービスの拡大を推進した
評価	A
今後の課題・方向性	平成23年5月開館 引き続き、利用者のニーズを踏まえ、地域の特色を反映した蔵書の整備を進めるとともに、各種普及活動を通じて、利用の促進を図る

平成22年度 金沢市教育委員会主要事務概要

目標	美しいまち・金沢をつくる
基本方針	- 1 伝統文化の保存・継承
基本施策	文化遺産の保存

【文化財の指定と保存】

文化財の指定と保存	
事業概要 (目的、目標)	(対象:市内にある文化財 開始時期:平成22年4月 予算:700千円) 市内にある文化財の保存のために、指定制度をとり、市内に残る貴重な文化財を保護し後世に伝えていく。
(内容)	文化財保護審議会を開き、外部有識者の意見を伺う。
実績等	金沢市指定文化財(平成23年3月31日現在) 有形文化財・・・建造物20、絵画33、彫刻18、工芸品73、書跡3 古文書・典籍3、考古資料7、歴史資料6 無形文化財・・・芸能2 民俗文化財・・・有形4,無形8 記念物・・・史跡8,名勝4,天然記念物4
点検	22年度の実績は建造物1件、考古資料1件、絵画2件と、多数の文化財を指定することが出来た。
評価	A
今後の課題・方向性	本市の歴史遺産の保存・継承に向けて、各関係者等と連絡を密にし、詳細調査し、1年で5件程度の指定を目指し、貴重な文化財の保護を推進。

目標	美しいまち・金沢をつくる
基本方針	- 1 伝統文化の保存・継承
基本施策	金沢ゆかりの文化の保存・活用

【ふるさと教育の推進】

ジュニアかなざわ検定の実施<再掲>	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内小学4年生～中学3年生 開始時期:H18年4月 予算:318千円) 子どもたちが金沢の歴史や文化について学ぶ機会を創出する。 ジュニアかなざわ検定開催のための実行委員会・問題作成委員会を開催し、 ジュニアかなざわ検定を小学生版・中学生版に分けて、45分間で実施する。
実績等	平成22年8月23日(月)実施。受検者数3,082名(うち、保護者10名)
点検	平成21年度に比べ、受検者数は1,000人以上増加。 こども達のふるさとへの関心が高まっているといえる。
評価	A
今後の課題・方向性	より難易度を下げ、敷居を低くすることで、子どもたちの受検意識をかきたてる。

平成22年度 金沢市教育委員会主要事務概要

目標	安心して暮らせるまち・金沢をつくる
基本方針	- 2 子育て環境の整備
基本施策	子育て支援体制の充実

【経済的な支援の充実】

私立幼稚園運営補助 < 再掲 >	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象: 私立幼稚園 開始時期: 昭和32年度 予算: 運営費111,000千円、心身1,176千円、夢ステ5,450千円、預かり6,300千円) 私立幼稚園教育の振興及び経営の安定、健全性の促進 ・私立幼稚園等運営費補助: 私立幼稚園への運営費補助 ・私立幼稚園心身障害児幼稚園運営費補助: 心身障害児が1人在園している私立幼稚園への運営費補助 ・金沢子育て夢ステーション事業費: 私立幼稚園が開催する子育て支援事業に必要な経費補助 ・私立幼稚園預かり保育推進事業費補助: 私立幼稚園での休業日及び平日の預かり保育に必要な経費補助
実績等	補助金交付園数 ・私立幼稚園等運営費補助 37園 ・私立幼稚園心身障害児幼稚園運営費補助 3園 ・金沢子育て夢ステーション事業費 27園 ・私立幼稚園預かり保育推進事業費補助 25園
点検	幼児教育の振興及び学校経営の安定化が図られた。
評価	A
今後の課題・方向性	私立幼稚園の教育内容の充実のため、今後も継続する。
私立幼稚園施設整備補助 < 再掲 >	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象: 私立幼稚園 開始時期: 平成11年度 予算: 施設整備2,400千円、子育て0千円、耐震0千円) 幼稚園児の教育環境の充実 ・私立幼稚園施設整備事業費補助: 施設整備費の一部を補助 ・私立幼稚園子育て支援施設整備費補助: 子育て支援施設整備費の一部を補助 ・私立幼稚園施設耐震診断費等補助: 施設の耐震診断・耐震設計費の一部を補助
実績等	補助金交付園数 ・私立幼稚園施設整備事業費補助 3園 ・私立幼稚園子育て支援施設整備費補助 0園 ・私立幼稚園施設耐震診断費等補助 0園
点検	幼稚園施設の充実が図られた。
評価	A
今後の課題・方向性	私立幼稚園の教育内容の充実のため、今後も継続する。

私立幼稚園就園奨励制度	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:私立幼稚園に就園している子の保護者 開始時期:昭和47年度 予算:351,314千円) 私立幼稚園の就園の奨励 私立幼稚園に在園する園児の保護者の経済的負担を軽減し、 私立幼稚園への就園を奨励するため、保育料・入園料を補助 対象者...金沢市に住所を有する満3歳から小学校就学の始期に 達するまでの者
実績等	認定者数 3,746人
点検	保護者の経済的負担を軽減し、私立幼稚園の就園を奨励できた。
評価	A
今後の課題・方向性	子育て支援の観点から、今後も継続する。
就学援助制度	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内小中学生の保護者 開始時期:昭和31年度 予算:207,900千円) 保護者の経済的負担の軽減 学用品費、通学用品費、新入学用品費、校外活動費、修学旅行費、体育実技用 具費、通学費の援助
実績等	平成22年度認定者数(認定割合) 小学生 4,589人(18.47%) 中学生 2,410人(20.71%) 計 6,999人(19.19%)
点検	保護者の経済的負担の軽減が図られた。
評価	A
今後の課題・方向性	義務教育の円滑な実施のため、今後も継続する。
医療援助制度	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内小中学生の保護者 開始時期:昭和31年度 予算:10,800千円) 保護者の経済的負担の軽減 準要保護児童生徒の学校保健安全法施行令第7条で定める疾病に係る医療費 の援助
実績等	平成22年度申請件数 1,664件
点検	保護者の経済的負担の軽減が図られた。
評価	A
今後の課題・方向性	義務教育の円滑な実施のため、今後も継続する。
給食援助制度	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内小中学生の保護者 開始時期:昭和31年度 予算:305,900千円) 保護者の経済的負担の軽減 準要保護児童生徒の学校給食費の援助
実績等	平成22年度 小学生 4,517人 中学生 2,264人 計 6,781人
点検	保護者の経済的負担の軽減が図られた。
評価	A
今後の課題・方向性	義務教育の円滑な実施のため、今後も継続する。

特別支援教育就学奨励費	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内の小中学生の保護者 開始時期:昭和29年度 予算:7,540千円) 保護者の経済的負担の軽減 特学奨励費...学用品費、通学用品費、新入学用品費、校外活動費、 修学旅行費、体育実技用具費、通学費、給食費、医療費の援助 通級費...通級者(普通学級に籍を置き、ことばやきこえの教室に 通級する者)には通学費のみ支給
実績等	特学奨励費 小学生 106人 中学生 26人 計132人 通級費 小学生 145人 中学生 18人 計163人
点検	保護者の経済的負担を軽減が図られた。
評価	A
今後の課題・方向性	特別支援教育の普及推奨のため、今後も継続する。
小中学校遠距離等児童生徒通学費補助	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学生の保護者 開始時期:昭和41年度 予算:12,660千円) 保護者の負担軽減 市立小中学校生で遠距離等の理由で徒歩通学が 困難な方に対し、通学費を補助 対象者...遠距離通学者(通学距離が小学校3km以上、中学校5km以上)、 通学路に徒歩危険区域が含まれることにより路線バス又は電車により 通学している者、教育委員会が別に定める特例区域外通学者 (山間地併設校3校) 補助額 路線バス又は電車による通学者 ...バス・電車の通学にかかる実支出額(定期代)の1/2 教育委員会が特に認める交通手段(自家用車) ...実際の通学に要した日数1日につき27円/1kmを乗じた 額以内の額(上限あり)
実績等	対象者 小学生181人 中学生176人
点検	保護者の経済的負担の軽減が図られた。
評価	A
今後の課題・方向性	遠距離等通学者の経済的負担の軽減を図るため、今後も継続する。

【教育に関する相談体制の構築】

面接相談事業	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:主に市内小中学生、保護者、教職員等 開始時期:平成15年 予算:520千円) 学校生活での不応適や発達にかかわる支援 保護者や教職員を対象に、主に学校生活での不応適、発達にかかわる問題や 就学、不登校等について、心理士や指導主事等の相談員が継続的に相談に 応じる。
実績等	相談延べ人数 4,482人
点検	センターの相談員が面接し、継続的に相談に応じることができた。
評価	B
今後の課題・方向性	心理検査器具を整備して、教育相談環境を向上させる。 相談員の専門性の向上に努めながら、今後も継続して小中学校児童生徒、 保護者、教職員等への相談事業を実施。

巡回専門相談事業	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:主に市内小中学生、保護者、教職員等 開始時期:平成17年 予算:700千円) 集団活動場面での児童生徒の不適応,発達障害等への支援 専門的知識・経験を有する巡回専門相談員(委嘱)が小・中学校からの要請に 基づき、現場に出向き、児童生徒の行動特徴などの把握を行いながら、 教職員や保護者等への支援を行う。
実績等	相談延べ人数 662人
点検	巡回専門相談員が小中学校へ巡回を行い,教職員や保護者等への支援を行う ことができた。
評価	B
今後の課題・方向性	外部委嘱の専門相談員と連携しながら、 今後も継続して教職員・保護者等への相談事業を実施。

平成22年度 金沢市教育委員会主要事務概要

目標	安心して暮らせるまち・金沢をつくる
基本方針	- 4 ノーマライゼーション社会の実現
基本施策	バリアフリーの推進・障害のある方の自立支援

【特別支援教育の推進】

支援人材の配置による校内支援体制の充実<再掲>	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校 開始時期:平成17年度 予算:30,450千円) 特別な支援を要する児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう支援する。特別支援教育コーディネーターを中心とした各学校の校内支援体制を構築するとともに、補助員・サポーターを配置し、特別支援教育の充実を図る。 金沢市就学指導委員会を開催し、専門的な立場から就学についての指導・助言を行う。 ・補助員 通常学級において教育的・介助的な支援をする。 ・サポーター 校外活動や行事等で一時的に支援をする。
実績等	特別支援指導補助員 55校64人 時間数延べ31,903時間 特別支援学級指導補助員 7人、特別支援教育サポーターの配置 就学指導委員会審議件数 195件
点検	特別な支援を要する児童生徒は、年々増加する傾向にあり、個々に応じた教育を進めるために重層的・多面的な支援を行っていく必要がある。
評価	A
今後の課題・方向性	今後も、支援の充実、効果的・効率的な活用を図りながら継続する。 支援を要する児童生徒は年々増加していることから、支援人材の配置基準を見直し、適正な配置を図る必要がある。
特別支援学級・通級指導教室の設置、施設整備<再掲>	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校 開始時期:平成14年度 予算:16,549千円) 児童生徒の発達や特性に応じた教育を行うための環境整備を行う。 新規に特別支援学級・通級指導教室を設置し、運営していく上で、必要な施設、器具の整備等を行う。
実績等	特別支援学級小学校12校12クラス、中学校7校7クラスが新規に設置され、必要な施設、器具の整備等を行った。 特別支援学級の状況(平成22年5月1日現在) 知的障害特別支援学級 小学校53校114人 中学校14校38人 情緒障害特別支援学級 小学校49校99人 中学校20校39人 肢体不自由特別支援学級 小学校20校24人 中学校3校4人 病弱・身体虚弱特別支援学級 小学校2校7人 中学校1校3人 ことばの教室 小学校5校148人 中学校1校7人 きこえの教室 小学校2校14人 中学校1校2人 LD・ADHD教室 小学校3校46人 中学校1校15人
点検	年々増加する傾向にある特別な支援を要する児童生徒に対し、個々に応じた指導を進めるために、特別支援学級の整備を行うなど環境整備の一層の充実が必要である。
評価	A
今後の課題・方向性	新特別支援学校学習指導要領では、障害の重度・重複化、多様化への対応のため、一人一人に応じた指導の一層充実を求めており、今度も、効果的・効率的に必要な施設、器具の整備等を継続して行っていく。

平成22年度 金沢市教育委員会主要事務概要

目標	安心して暮らせるまち・金沢をつくる
基本方針	- 5 人権文化の創造
基本施策	人権の尊重

【人権教育・啓発の推進】

学校教育における人権・同和教育の推進<再掲>	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:教職員 開始時期:- 予算:600千円) 教職員の人権意識高揚と人権啓発の推進。 学校教育全般を通じて人権・同和教育の取組及び人権・同和教育担当者が中心となった校内での教職員研修を実施。 人権・同和担当の指導主事を配置し、教職員の人権意識高揚と人権啓発の推進のための研修実施。金沢市同和教育研究協議会に対する支援。
実績等	人権・同和教育についての研修会を実施。(プラザ富樫除く) 予算については、金沢市同和教育研究協議会に対する補助金
点検	小中学校において人権教育を進めていくことは必要不可欠であり、そのため教職員に対する研修等を積極的に行っていくことが必要である。
評価	A
今後の課題・方向性	今後とも学校教育全般を通じて人権・同和教育を推進していくため、教職員研修、学校訪問等での指導助言等は継続していく。
社会教育における人権教育の推進	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:教職員、PTA、社会教育団体等 開始時期:平成9年度 予算:940千円) 人権にかかる問題の解決に資することができるよう、社会教育における人権に関する学習を推進する。 人権問題講演会の開催、公民館における人権ネットワーク学習の開催等
実績等	91.6%が「良かった」又は「大変良かった」と回答。人権ネットワーク学習では、計154名の参加があった。
点検	開催を通じて広く人権・同和教育の普及・啓発を行うことができている。
評価	B
今後の課題・方向性	今後も引き続き、中央講師の招聘等により、幅広い分野から専門的知識のある講師を選定することや、ワークショップや、人権啓発ビデオを用いた研修会を斡旋する等、内容の充実化を図り、引き続き普及・啓発に努めていく。

目標	安心して暮らせるまち・金沢をつくる
基本方針	- 5 人権文化の創造
基本施策	男女共同参画社会の推進

【女性センターの運営】

女性センターの運営	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:女性センター 開始時期:昭和23年4月 予算:14,104千円) 女性が幅広い視野を持ち積極的に社会参加することを目指す。 女性センターの効率的かつ円滑な管理運営を通して、学習機会の提供と実践 及び交流の促進。
実績等	女性の社会参加やステップアップを目的としたセミナーや講座を開催。 子育てネットワークセミナー他8事業 受講者数659人
点検	各講座ごとに受講生からのアンケートを取り、受講生が望んでいることを分析し 次年度の講座に活かしている。
評価	B
今後の課題・方向性	女性の学習の拠点として、多様化した女性の生き方を支援するとともに、男女の 役割や責任も分かち合える真の男女共同参画社会の実現を目指した事業を 展開していく。

平成22年度 金沢市教育委員会主要事務概要

目標	安心して暮らせるまち・金沢をつくる
基本方針	- 1 災害に強いまちづくり
基本施策	防災計画の見直しと体制の強化

【学校施設の耐震化】

学校施設の耐震化＜再掲＞	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校施設 開始時期:平成8年度 予算:1,315,755千円) 小中学校施設の耐震化を完了させる。 地震防災緊急事業5カ年計画に基づき、昭和56年以前に建築された学校施設について耐震補強工事を実施する。
実績等	小学校施設:新竪町、花園、富樫、三和、緑小学校の体育館の耐震補強工事。 中学校施設:浅野川、高岡、鳴和、野田、西南部、紫錦台、金石中学校の校舎の耐震補強工事。
点検	施設の耐震化が図られた。 耐震化率 67.4%(H22.4.1) 71.4%(H23.4.1)
評価	A
今後の課題・方向性	金沢市学校施設整備計画検討会の報告を基本に、国の財源を出来るだけ活用しながら、早期の耐震化の完了を図る。

目標	安心して暮らせるまち・金沢をつくる
基本方針	- 1 災害に強いまちづくり
基本施策	地域防災・防犯活動の支援

【子どもの安全を守る地域ボランティア活動推進】

学校における児童・生徒の安全確保のための安全管理対策の充実<再掲>	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:小中学校の児童生徒 開始時期:平成13年9月 予算:15,540千円) 登下校時、学校内、学校行事における児童生徒の安全確保を確保する。 学校行事日の受付業務、オートロック・テレビドアホンの設置、学校合同行事の警備、子ども見守りボランティアへの活動支援等
実績等	オートロック・テレビドアホンの設置・・・小学校3校、中学校4校 64校(H22.4.1) 71校(H23.4.1) 子ども見守りボランティアへの支援・・・(6,389人ボランティア保険に加入)
点検	オートロック・テレビドアホンの設置、施設の改善を行うことができた。 子ども見守りボランティアへの活動支援を行い、児童生徒の安全確保に努めた。
評価	A
今後の課題・方向性	引き続き、児童生徒の安全確保のため、実施事業について、警備等のソフトと施設改良等のハード双方の視点から継続して行う。

【地域健全育成団体への活動推進】

地域健全育成活動への支援<再掲>	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:各地区青少年健全育成推進団体 開始時期:- 予算:3,000千円) 子どもたちが安心して心身ともに健康に暮らせる地域づくりをめざす。 地域住民の青少年健全育成意識を啓発する。 地域住民の青少年健全育成活動の意識啓発活動、青少年非行防止活動、有害環境の浄化活動、青少年健全育成の広報活動を実施する対象団体に補助金を交付。
実績等	52団体に計3,000千円を交付した。 各地区平均8回程度の活動を行った。
点検	各地区ごとにそれぞれの地域に即した特色ある青少年健全育成活動を展開している。
評価	A
今後の課題・方向性	携帯電話やインターネットの弊害によるものなど、最近の青少年の健全育成を阻害する要因は多様化しており、地域住民の青少年健全育成意識の啓発・向上等のため、支援を行っていく。

地域健全育成活動団体の連携促進<再掲>	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:金沢市青少年健全育成協議会 開始時期:平成11年11月 予算:400千円) 各地区青少年健全育成推進団体の相互関係構築と、情報交換、技術向上。 地域の青少年健全育成推進団体の相互の情報交換や合同での研修会の実施。 各々の地域での健全育成活動の取り組みの方向性、合同での事業の実施等についての調査と研究を行い、健全育成推進活動の効果をより高める。 下記活動内容を実施する金沢市青少年健全育成協議会(各地域青少年健全育成推進団体61団体で構成)に交付金を交付。 ・各ブロック会議の開催(情報交換、研修)、全体研修会の開催、金沢市青少年健全育成推進大会の開催、警察等関係機関と街頭キャンペーンを実施。
実績等	平成22年度 全体研修会を実施したほか各ブロック会議が開催された。警察本部と合同で非行防止のための一斉街頭キャンペーンを実施。 市内酒類、たばこ販売店へ販売時の年齢確認徹底の協力依頼を実施。
点検	市内酒類、たばこ販売店へ販売時の年齢確認徹底の協力依頼を実施するなど、精力的に活動を実施。各ブロック研修を開催し、知識の向上をはかった。
評価	B
今後の課題・方向性	携帯電話やインターネットの弊害によるものなど、最近の青少年の健全育成を阻害する要因は多様化しており、時代やニーズにあった活動に向け支援を行っていく。
地域子ども指導員による巡回等<再掲>	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:地域子ども指導員 開始時期:平成19年6月 予算:166千円) 各地域の青少年非行防止、有害環境浄化を推進する。 地域における青少年健全育成推進団体から推薦された方465名を「地域子ども指導員」に委嘱し、各地域の街頭での声かけや巡回を行う。
実績等	各地区の街頭での声かけや巡回、市少年補導部門との合同研修会、巡回強化地区への市補導部門補導員との合同補導活動
点検	全体で465名が各地区で地域子ども指導員として非行防止活動と有害環境浄化活動を展開している。
評価	B
今後の課題・方向性	今後も青少年の非行防止、有害環境浄化の推進にむけ継続的に活動の活性化につながるよう支援を実施。また、充実した研修会を開催し、知識の向上に向けた取組を行う。
金沢市児童生徒「思いやりの心」活動奨励賞<再掲>	
事業概要 (目的、目標) (内容)	(対象:市内の小中学生 開始時期:平成21年11月 予算:118千円) 「絆」教育の一環として、本市における児童生徒の思いやりの心を持って行った活動を奨励するため、優れた活動を行った学校及び児童生徒のグループを表彰する。 金沢市青少年健全育成推進大会席上にて表彰。
実績等	学校賞 4校(小学校3校 中学校1校) グループ賞 1校(中学校1校)
点検	この表彰により、受賞した学校及びグループの活動内容が市内小中全学校に周知。優れた学校の教育的活動を情報共有し、奨励することが出来た。
評価	B
今後の課題・方向性	優れた学校の教育的活動を市内の小中学校や市民へ情報発信するために、または奨励するために、この表彰を継続、絆教育を推進する。

用語等説明

初出	用語	説明
P.6	学校教育金沢モデル	未来を担う金沢の子どもたちに、教育の充実と質の向上を図るため、平成16年度から実施しているもので、「学校2学期制」の実施、「小中一貫英語教育」の実施及び「学習指導基準金沢スタンダード」に基づく授業実践を柱とするもの。平成21年度から「金沢「絆」教育」を加えた第2次学校教育金沢モデルを進めており、知・徳・体のバランスのとれた児童生徒の育成をめざしている。
	実践研修拠点校	平成20年度から3年間の計画で、先進的かつ質の高い教育実践と優秀な人材の育成に取り組む「実践研修拠点校」を指定し、他校への波及効果等により、本市教育の充実を目指している。現在、小学校3校、中学校2校の5校が指定を受けている。
P.11	立志	14才の少年少女を激励し社会人としての自覚を促すため昭和41年に日本児童文学作家協会が「立春式」の開催を提唱。昭和45年度から青少年育成国民会議が全国的な運動として「立志の日」の推進を全国的に呼びかけ「立志式」「立春式」として広まったもの。金沢では昭和44年度から開催(子ども会が主催)
P.19	岡文化賞	元金沢市長(故)岡良一氏から寄託された基金1,000万円と、平成6年、同氏の長男岡一郎氏から寄附された1,000万円をあわせて基金とし、昭和56年から市内中学校の文化活動の奨励と情操豊かで創造的な生徒の育成に努めることを目的に、優れた文化活動を行った中学校や生徒を表彰している。
	宮村英語奨励賞	元金沢大学、金沢工業大学教授(故)宮村一之氏から寄附された1,000万円を基金とし、昭和60年から英語教育の振興を図ることを目的として、英語によるコミュニケーションに興味・関心を有し、英語の成績が優秀な中学校3年生に奨励賞を授与している。
	高峰賞	金沢が生んだ偉大な科学者であり、日米親善にも大きく貢献した高峰讓吉博士の功績を顕彰し、併せて理科学教育の充実と人材の育成により広く科学の振興に寄与することを目的として昭和26年に創設された。毎年、市内の中学校を対象に学校賞、個人賞を選考して表彰している。
P.21	サマースクール	夏季休業期間において、児童生徒の学習意欲を継続させながら学習の補充・発展を図り、さらに有意義な生活が送れるようにするために、児童生徒、学校、地域の実状に応じて各学校が企画・実施する補充的・発展的・体験的な活動。
P.23	学習指導要領	全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするため、文部科学省で定めた、各学校で教育課程(カリキュラム)を編成する際の基準。各学校では、この「学習指導要領」等に基づき、地域の実状や学校の実態に応じて、教育課程(カリキュラム)を編成している。
	全国学力・学習状況調査	国が学校教育の現状や課題について把握する目的から、平成19年度から実施しているもの。国が実施主体であり、市町村が参加主体である。毎年4月に、小学校6年国語・算数、中学校3年国語・数学が行われ、併せて質問紙調査も行われ、結果が市町村及び学校、児童生徒に送付される。
P.25	チーム・ティーチング	複数の教師が協力して行う授業方式の一つ。略称TT。
P.26	複式学級	複数学年の児童生徒によって編成される学級。
P.28	学校図書ボランティア	学校図書館の活動を支援する目的で、館内の環境整備や、読み聞かせなどの読書活動を行っている。
P.32	スクールカウンセラー	児童生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識及び経験を有する者で、児童生徒へのカウンセリング、教職員や保護者に対する助言・援助などを行う。
P.33	特別支援教育	障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの。これまでの特殊教育の対象の障害だけでなく、知的な遅れのない発達障害も含めて、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において実施される。
	特別支援教育コーディネーター	校内で指名された教員が特別支援教育のコーディネーター的な役割を担う。主に、校内委員会・校内研修の企画・運営、関係諸機関・学校との連絡・調整、保護者からの相談窓口等を行う。
	通級指導教室	通級による指導を行うため、小・中学校内に設置された教室。通級による指導とは、小・中学校の通常の学級に在籍している比較的軽度の障害のある児童に対して、主として各教科等の指導を通常の学級で行いながら、当該児童生徒の障害に応じた特別の指導を特別の指導の場で行う教育形態。指導の対象となる障害は、言語障害、自閉症、情緒障害、弱視、難聴、学習障害、注意欠陥多動性障害等である。
	LD・ADHD	・LD(学習障害):基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。 ・ADHD(注意欠陥多動性障害):年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、及び/又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものである。

用語等説明

初出	用語	説明
P.35	金沢市健康教育推進プラン	金沢子ども条例を受け、平成15年3月策定の「金沢子どもを育む行動計画」を小・中学生の健康づくりの視点から具現化するために策定された健康教育計画。子どものこころと体に関する目指す姿を明確にし、行政、学校、家庭相互の役割を体系化し、具体的な取り組みを通して子どものこころと体の保持増進を図っている。
P.41	耐震化率	文部科学省の耐震基準を満たした校舎・体育館の棟数の割合。 (昭和57年以降に建てられた棟数 + 耐震診断により補強が不要とされた棟数 + 補強工事済みの棟数 = 耐震基準を満たした棟数)
P.42	子ども見守りボランティア	主に小学校児童の登下校時に、不審者による犯罪や交通事故等を未然に防止するために通学路での見守りを行うボランティア。
P.53	自動車文庫	図書館から一定の遠隔地で図書館サービスを受けがたい地域に巡回貸出サービスを実施。改造したマイクロバスを利用して市内のステーションを月1～2回巡回。
P.56	書跡	書いた文字の跡、筆跡で歴史上・芸術上価値の高いものをいう。
	典籍	書物、書籍、本で歴史上・芸術上価値の高いものをいう。
	史跡	貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡で歴史上・学術上価値の高いものをいう。
	名勝	庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地で芸術上・鑑賞上価値の高いものをいう。